

iCOTBa

2023

愛知県立大学グローバル実践教育推進室 年報

第 11 号

2024(令和6)年3月
愛知県立大学

i C T B a

2023

愛知県立大学グローバル実践教育推進室 年報

第 11 号

2024(令和6)年3月
愛知県立大学

目次

生成 AI 時代の言語学習.....	1
1 グローバル実践教育と iCoToBa	3
1.1 グローバル実践教育プログラム.....	3
1.2 グローバル実践教育プログラム成果発表会.....	3
1.3 iCoToBa における学習支援.....	5
2 iCoToBa での語学教育	7
2.1 iCoToBa 開講講座一覧.....	7
2.2 講座内容.....	10
2.2.1 留学前準備講座.....	10
2.2.2 英語コミュニケーション講座.....	15
2.2.3 地域コミュニティ言語講座.....	21
2.2.4 語学検定試験対策講座.....	28
2.2.5 イベント・ワークショップ型講座.....	33
2.2.6 iContact (あいこんたくと).....	35
2.2.7 海外大学の学生とのオンライン交流.....	41
3 留学報告会.....	41
4 グローバルセミナー.....	43
5 iCoToBa のイベント	53
6 外部・地域との連携事業.....	61
6.1 探・県大スタディツアー.....	61
6.2 多文化共生・住みやすい街・愛知プロジェクト.....	62
6.3 2026 アジア競技大会撮影協力ボランティア.....	62
7 広報活動.....	63
7.1 iCoToBa 公式 Web サイトでの発信.....	63
7.2 SNS での発信 (Facebook・Instagram).....	65
8 iCoToBa 学部・学科別利用者一覧.....	66
9 iCoToBa 施設見学.....	67
9.1 iCoToBa 訪問者.....	67
9.2 高等学校の iCoToBa 施設見学.....	67
10 グローバル実践教育推進室会議.....	68
11 グローバル実践教育推進室.....	69

生成 AI 時代の言語学習

梶原 克教

グローバル実践教育推進室長・教養教育センター長

2023 年に公開された映画『search / #サーチ 2』には、デジタルネイティブ世代のコミュニケーションの様態だけでなく多言語使用の可能性も描かれており、勉強になった・・・というより頭を抱えさせられました。映画ではコロンビアで行方不明になった母親を、高校生の娘ジューンがデジタルコミュニケーションを駆使して、LA に居ながら検索する様が描かれています。スマホの位置情報から監視カメラの映像、銀行の出入金記録に至るまで、人びとの生活がデジタルで記録される時代ゆえの検索方法には唖らされるばかりでしたが、外国語学部教員として、また当室長として頭を抱えざるを得なかったのは、この世代の外国語使用術を目の当たりにしたからです。というのも、ジューンはコロンビアのホテルに電話し、先方に英語話者がいないことを知るやいなや、グーグルの翻訳機能を利用して、ほとんど同時通訳並みに英語とスペイン語間の会話を成立させていたのです。グーグル翻訳以上に、たとえば DeepL のような翻訳ソフトが無料で提供されている(卒論の要旨くらいなら瞬時に各言語に翻訳してもらえる)なかで、外国語教育・学習にどれほどの価値が見いだされるのでしょうか。



ひとつの可能性として、いわゆる Translation Studies という研究領域の方向性が参考になるかもしれません。この研究分野は多言語間の翻訳における問題点から、「翻訳」の技術というよりむしろ文化差の理解を志向しています。これは、AI 翻訳だけでは上滑りしかねないコミュニケーションを越えて、言語のやりとりに必然的に付随する文化的差異の理解に立った異言語間コミュニケーションを目標とするということです。そしてそれは、当室が iCoToBa で長年おこなってきた教育と重なり合っています。なぜなら、当室では課程外言語教育だけでなく、さまざまな異文化体験を含み持つ活動をおこなってきたからです。

なかでも本年度から開始した “iCoToBa NEXUS Project” は、言語と文化とメディアのクロスロードに焦点を当てるといって、AI 翻訳だけでは不可能な異言語間コミュニケーションのあり方を模索する試みです。マスメディアや SNS 等にあふれる真偽の定かでない情報の洪水から、判断基準を見いだすメディアリテラシーを獲得し、かつそれをどのように発信するかについて学び実践する「メディア制作ラボ」、加えて「暮らし」に根ざした災害時の多言語支援を目指す「コミュニティ通訳入門」といった新プログラムは、AI 翻訳だけでは不十分な「生」の側面に関わる教育・学習プログラムです。新設の異文化交流スペース “CroCuS” という場を積極的に利用しながら、当室は今後も本学ならではの多言語学習環境を創発してゆくことになるでしょう。



1 グローバル実践教育と iCoToBa

2017年4月に、グローバル実践教育推進室が設置され、「グローバル実践教育プログラム」および教育施設である iCoToBa(あいことば:多言語学習センター)の運営を行っている。

iCoToBa では、「グローバル実践教育プログラム」を推進するために多様な活動を行っている。具体的には、全学部生を対象とした外国語学習支援をはじめ、グローバル化が進む地域社会において、各学部の専門性を活かす場における外国人住民とのコミュニケーション能力の養成や多文化共生社会に必要な異文化理解、さまざまな情報を得るための実践的な英語能力の養成などが挙げられる。

以下、グローバル実践教育において、iCoToBa が果たす役割と、本年度の iCoToBa の取り組みについて述べる。

1.1 グローバル実践教育プログラム

2017年度に始まった「グローバル実践教育プログラム(学部により19~26単位)」は、2021年度から教養教育新カリキュラムと連動し、「県大世界あいち学マイスター制度・グローバル実践教育マイスター(全学部20単位)」として認定される。卒業時に獲得する知識とスキルは8つの分野に定められ、それぞれに科目が設置されている。

- A. 国際教養
- B. プレゼンテーションスキル
- C. 情報リテラシー
- D. 広義のコミュニケーション力
- E. 異文化適応能力
- F. 課題発見・解決力
- G. マネジメント能力
- H. 外国語能力



フィールドワークや PBL などのアクティブラーニングを取り入れ、他学部の専門科目を履修できるようにすることで、異なる専門性や背景知識を持った人と協力し課題を解決する機会が設けられており、実践的な学習そのものが異文化理解体験につながるよう工夫されている。(別表1、2参照)

1.2 グローバル実践教育プログラム成果発表会

2020年度入学までの学生の「グローバル実践教育プログラム」修了要件の一つに、当該プログラムにかかわる学修や活動の成果発表がある。今年度の成果発表会は下記のとおり開催され、グローバル実践教育推進室室員の評価により、合格となった。

日時:2023年11月15日(水)12:10~12:30(Teamsで視聴可)

発表者:外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻 1名

別表 1 グローバル実践教育プログラム

	開講科目	設置 単位	必修 単位
A・ 国際 教養	愛知の文化遺産	2	2
	日本の歴史と文化	2	
	アジアの歴史と文化	2	
	ヨーロッパの歴史と文化	2	2
	北アメリカの歴史と文化	2	
	中南米の歴史と文化	2	
	アフリカの歴史と文化	2	
	現代社会の諸問題	2	
	エリアスタディーズ総論	2	
B・ プレゼン テーション スキル	Intercultural Seminars in English (英語セミナー) *	4	2
	Seminários interculturais em português (ポルトガル語セミナー) *	4	
	Séminaires interculturels en français (フランス語セミナー) *	2	
	Seminarios interculturales en español (スペイン語セミナー) *	2	
	Interkulturelle Seminare Deutsch (ドイツ語セミナー) *	2	
	跨文化汉语研讨班 (中国語セミナー) *	2	
	県大教養ゼミナール	4	2
C・ 情報リテ ラシー	情報リテラシー	2	2
	メディア情報基礎	2	
	高度情報社会の理解	2	
	データサイエンスへの招待－実践編	2	
		2	
D・ 広義の コミュニ ケーション 能力	多文化社会とコミュニケーション	2	2
	キャリア実践	2	
	日本語表現法	2	
		2	
E・ 異文化 適応能力	Global Vision Talks	2	2
	Japan Seen from Outside	2	
	Japan's Interactions with Other Cultures	2	
	教養外国語ショートプログラム	2	
	教養留学修得科目	6	
F・ 課題 発見・ 解決力	ものづくりの現状と課題	2	2
	グローバル社会の諸問題	2	
	いのちと防災の科学	2	
	県大エッセンシャル	2	
		2	
G・ マネジメ ント能力	インターンシップ実践	2	2
	キャリア展望－生き抜く力	2	
H・ 外国語 能力	英語 II	4	2
	Intercultural Seminars in English (英語セミナー) *	4	
	ポルトガル語 I	4	
	ポルトガル語 II	4	
	Seminários interculturais em português (ポルトガル語セミナー) *	4	
	フランス語 I	4	
	フランス語 II	4	
	Séminaires interculturels en français (フランス語セミナー) *	2	
	スペイン語 I	4	
	スペイン語 II	4	
	Seminarios interculturales en español (スペイン語セミナー) *	2	
	ドイツ語 I	4	
	ドイツ語 II	4	
	Interkulturelle Seminare Deutsch (ドイツ語セミナー) *	2	
	中国語 I	4	
	中国語 II	4	
	跨文化汉语研讨班 (中国語セミナー) *	2	
	ロシア語 I	4	
	ロシア語 II	4	
	韓国朝鮮語 I	4	
韓国朝鮮語 II	4		
日本語 I	4		
日本語 II	4		

別表 2

外国語学部

	専攻外国語	第2外国語（教養教育外国語科目）
英語	TOEIC Listening & Reading Test 800 点以上	TOEIC Listening & Reading Test 730 点以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験 準1 級以上	実用フランス語技能検定試験 3 級以上
スペイン語	DELE B1 以上	DELE A1 以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 2 級以上	ドイツ語技能検定試験 4 級以上
中国語	中国語検定試験 2 級以上	中国語検定試験 3 級以上
ポルトガル語		外国語としてのポルトガル語検定試験 CIPLE 以上 または、「ポルトガル語Ⅱ」、「エクスプレス・ポルトガル語」で A 評価を 4 単位以上
ロシア語		ロシア語能力検定試験 4 級以上 または、「ロシア語Ⅱ」で A 評価を 4 単位
韓国朝鮮語		ハングル能力検定試験 3 級以上、または韓国語能力試験 3 級以上
日本語		日本語能力検定試験 N1 合格

日本文化学部 教育福祉学部 看護学部 情報科学部（いずれか 1 言語について達成の必要有）

英語	TOEIC Listening & Reading Test 550 点以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験 4 級以上 または、フランス語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
スペイン語	DELE A1 以上 または、スペイン語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 4 級以上 または、ドイツ語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
中国語	中国語検定試験 4 級以上または、中国語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
ポルトガル語	外国語としてのポルトガル語検定試験 CIPLE 以上 または、ポルトガル語Ⅰ、Ⅱ、エクスプレス・ポルトガル語で A 評価を 4 単位以上
ロシア語	ロシア語能力検定試験 4 級以上 または、ロシア語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
韓国朝鮮語	ハングル能力検定試験 5 級以上または、韓国語能力試験 1 級以上または、韓国朝鮮語Ⅰで A 評価を 4 単位
日本語	日本語能力検定試験 N1 合格（留学生対象） または日本語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上

備考

注 1：検定試験は、本学在籍中に受験したものに限る。

注 2：TOEIC Listening & Reading Test については公開テスト、あるいは、本学で受験した IP テストに限る。

1.3 iCoToBa における学習支援

本学のグローバル実践教育を推進し、多文化共生社会で活躍できる力を身につけるために、iCoToBa では、以下のような外国語学習支援と異文化理解および異文化交流のための活動を行っている。

1. 外国語学習支援(第2章参照)

目的別、レベル別に 5 種類の語学講座(留学前準備講座、英語コミュニケーション講座、地域コミュニティ言語講座、語学検定試験対策講座、イベント・ワークショップ型講座)と、個別指

導を行う iContact(あいこんたくと)を開講している。それぞれの内容を表 1 に示す。

[表 1 iCoToBa における外国語学習支援]

講座名称	内容
留学前準備講座	留学に必要となるアカデミックスキルや、留学先の日常生活に必要な知識や会話能力を養成する講座
英語コミュニケーション講座	外国語を専門としない学生も受講しやすいように、CEFR の A1 レベルから C1 まで、多様なクラスを設定した講座
地域コミュニティ言語講座	愛知県を中心とする地域でニーズの高い外国語(ポルトガル語など)を中心に、外国にルーツを持つ人々への円滑な対応を目指す。専門職業分野にも特化した講座
語学検定対策講座	TOEIC、TOEFL、IELTS その他語学検定試験対策講座
イベント・ワークショップ型講座	学生主導のプロジェクトや「task-based learning」ワークショップで、教員と学生が協働する新しいタイプの講座
iContact	外国人教員(予約制)および留学生による個別指導

2. 留学報告会(第 3 章参照)

学生の留学への動機づけを目指した、留学体験談を聞くイベントである。週に一度、昼休みに開催している。

3. 国内外のグローバル・ 이슈を学ぶ、グローバルセミナー(第 4 章参照)

本学の専任教員を中心に、国内外のグローバルな文脈における研究や、研究に関連した活動、または、海外生活で得た経験などを紹介するセミナーである。全学教員の協力により、さまざまなテーマを取り上げている。1 回完結型で凝縮された内容を扱っており、学生のみならず教職員の参加も多い。

4. 異文化理解・交流イベント(第 5 章参照)

外国の文化を紹介・体験するイベントや、本学留学生や近隣機関との交流イベントなどを開催している。異文化を理解し、外国語でコミュニケーションする機会にもなっている。また、これらの多くのイベントは、企画段階から学生も参加しており、学生の自主性や行動力、マネジメント能力育成も目指している。

5. 地域社会と連携した学習機会の提供

地域産業界や自治体等と連携し、地域社会における課題解決を目指した学習機会や地域でのボランティア活動の機会を学生に提供している。

6. 学生活動の支援

学生の自主的な活動を貴重な学習経験と捉え、iCoToBa では、学生による企画立案・実施を推奨、サポートしている。現在では、学生の自主グループ iCoToBa Supporters Club (ISC) が組織化され、iCoToBa の運営に積極的に参画している。

2 iCoToBa での語学教育

iCoToBa では、外国語教育の目的として、①留学準備、②全学の英語力の強化、③多文化共生社会に必要な専門性を活かすための外国語コミュニケーション能力養成に重点を置いている。このような目的のもと、2023 年度に iCoToBa では「留学前準備講座」、「英語コミュニケーション講座」、「地域コミュニティ言語講座」、「語学検定試験対策講座」、「イベント・ワークショップ型講座」が開講された。iCoToBa の語学講座は、1 学期に 13 コマ行うものと、外国語を専攻としない学生にも学びやすいよう、5 コマで 1 セットや 10 コマで 1 セットのコースもある。

また、愛知県をはじめとする東海地域は、外国人居住者が多い地域であり、私たちは社会のあらゆる場面で外国人とのコミュニケーション場面に遭遇する。そこで、看護師、介護士、教師、公務員などを目指す学生を対象に「地域コミュニティ言語講座」を開講している。2023 年度は、スペイン語、中国語、韓国朝鮮語、ベトナム語そして多言語のコミュニティ通訳入門の講座を開講した。そして、多様な目的に応じて複数の媒体を扱いながら、外国語のスキルを活用することのできる“NEXUS Project”を開始し、社会的課題に関わるメディア制作やコミュニティ通訳の実践を体験できる講座を開講した。

これらの講座に加えて、個別指導を行う iContact(あいこんたくと)も実施した。

以下、2023 年度に iCoToBa で開講した語学講座について報告する。

2.1 iCoToBa 開講講座一覧

2023 年度に iCoToBa で開講した語学講座を、表 2～5 に示す。表内の「レベル」はヨーロッパ言語共通参照枠(Common European Framework of Reference:CEFR)によるものである。それぞれのレベルの目安は、A1:初級、A2:初中級、B1:中級、B2:中上級、C1:上級、All Levels はレベルに関係なく受講できる科目である。* は NEXUS Project 講座を示す。

[表 2 2023 年度 iCoToBa 開講 留学前準備講座]

開講時期	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講者数
前期	* 中級・上級ディスカッション:グローバルニューストーク	Intermediate / Advanced Discussion Class: Global News in English	B1-C1	8
前期	* 日本のポップカルチャーについて話しましょう:「少年ジャンプ」編	Let's Talk Japanese Pop Culture: Shonen Jump	B1-C1	14
後期	* 中級・上級ディスカッション: グローバルニューストーク	Intermediate / Advanced Discussion Class: Global News in English	B1-C1	7
後期	* 映像の「アメリカ」:批判的観賞とディスカッション	American Society on Film: Viewing and Discussion	B1-C1	12

前期	フランスでの生活を始めましょう！	Allons en France !	A2-B1	5
後期	フランスでの生活を始めましょう！	Allons en France !	A2-B1	2
前期	スペイン語・DELE の準備をしよう！	¡Listos para el DELE!	A2-B1	10
後期	スペイン語・DELE B1 の準備をしよう！	¡Listos para el DELE B1!	A2-B1	6
前期	ドイツ語・留学前準備講座	Vorbereitung auf das Auslandsstudium	A2	5
後期	ドイツ語・留学前準備講座	Vorbereitung auf das Auslandsstudium	A2	3
前期	中国事情を語る	留学之前話中国	A2-B1	5
後期	中国事情を語る	留学之前話中国	A2-B1	3

[表 3 2023 年度 iCoToBa 開講 英語コミュニケーション講座]

開講時期	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講者数
前期	生きた英語発音 新入生・初級生向けの楽しいコース	Pronunciation Profiles Fun Class for New Students and Beginners	A1-B1	35
前期	英会話: 基本へ立ち返る	English: Back to Basics English Communication Workshop	A1-B1	8
前期	英語メール上達の秘訣	Improve your English Emails	A2 and up	8
前期	*iCoToBa メディア制作ラボ	iCoToBa Media Production Lab	All Levels	9
前期	映画を使った英語学習のコツ	Study English with Movies	A2-B2	22
後期	初心者向けフリートーク: ボキャブラリーと簡単なディスカッション	Free Talk for Beginners: Vocabulary Drills and Simple Discussion	A1-B1	8
後期	実際に使える学術的ディスカッションスキル	Real-Life Academic Discussions One-Off Sessions / Free Discussion	A2-B2	10
後期	*全大学的メディア制作プロジェクト:「災害を考える」: 学生メディア制作チーム	"Facing Disasters" Student Media Production Team	All Levels	6

後期	英語で自分の海外旅行計画を立てよう！:英語と旅行をつなげる	Plan a Trip in English: Applying your English to your Travels	A1-B1	14
----	-------------------------------	--	-------	----

[表 4 2023 年度 iCoToBa 開講 地域コミュニティ言語講座]

開講時期	科目名称	受講者数
前期	文化・生活分野スペイン語入門講座	7
後期	教育分野スペイン語入門講座	4
前期	文化・生活分野中国語入門講座	11
後期	文化・生活分野中国語入門講座	1
前期	観光・文化分野韓国朝鮮語講座超入門編	8
前期	観光・文化分野韓国朝鮮語講座初中級編	4
後期	観光・文化分野韓国朝鮮語講座超入門編	5
後期	観光・文化分野韓国朝鮮語講座初中級編	5
前期	観光・文化分野ベトナム語入門講座	12
後期	観光・文化分野ベトナム語入門講座	1
前期	コミュニティ通訳入門講座	6
後期	コミュニティ通訳入門講座	10

[表 5 2023 年度 iCoToBa 開講 語学検定試験対策講座]

開講時期	科目名称	受講者数
前期	TOEIC Clinic	16
前期	TOEIC Clinic ONLINE	16
後期	TOEIC Strategies: 10-Week Course	10
後期	TOEIC Clinic (Separate Sessions)	30
夏季	英語力強化集中講座	17
春季	英語力強化集中講座	6
前・後期	ポルトガル語:CAPLE に挑戦しよう!	5
後期	フランス語:ネイティブによる仏検 1 次試験対策講座	2
後期	スペイン語:DELE B2 の準備をしよう!	9
後期	中国語:中国語検定試験 3 級合格を目指そう!	14
後期	日本語能力検定試験対策講座(留学生対象)	4

2.2 講座内容

2.2.1 留学前準備講座

【英語】

* Intermediate / Advanced Discussion Class: Global News in English

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Tuesday 4th period

Objective:

- To improve listening comprehension and vocabulary for news in English.
- To make a habit of reading the news in English and thinking critically about events.
- To practice expressing and defending our opinions about controversial topics.

Course Contents:

This course had two lesson modules which were repeated through alternating weeks. The first style was listening oriented. The teacher played 2 to 3 news broadcasts, while highlighting important vocabulary. Students then wrote summaries of their understanding of the broadcast, which we checked as a class. Afterwards, the students had a discussion about the issues in those broadcasts. The second style was reading and discussion oriented. Students shared their chosen news articles on a Teams page and presented their view of the issues in class. After a Q&A session, they broke into groups and discussed the issues. In the final week of class, we reviewed our topics and discussed how to integrate critical news consumption into our lives.

End-of-Semester Review:

I continued the same lesson structure from the previous year. This version of the course benefitted from the participants' high English competence and base awareness of global issues. Many of the warm-up exercises and lectures that I had used previous were unnecessary; the class could be devoted to free discussion of issues. However, I was able to develop the listening comprehension activities in the first lesson style; balancing general comprehension with specific listening exercises. In addition, the students came from diverse backgrounds, including one exchange student from Taiwan. This naturally added to the richness of the discussion. If at all possible, we need to push for more exchange student participation in iCoToBa classes.

* Let's Talk Japanese Pop Culture: Jump Manga

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Thursday 4th period

Objective:

- To critically analyze and discuss important aspects of contemporary media culture.
- To gain the language skills needed to critically discuss cultural issues in English.
- To build and carry out a course plan designed by the students themselves.

Course Contents:

At the beginning of the course, an aspect of contemporary culture was presented, and the

participating students designed their own course of study for it. For this course, the topic was manga from the popular *Shonen Jump* magazine. Alternating groups of students chose manga samples, which we read and discussed in class. With the aid of specially designed planning materials and instructor guidance, students decided the textual samples, the weekly lesson structure and course schedule, assignments, and any language help. The main bulk of the course followed the students' designed structure while making small adjustments. A final discussion was also planned and carried out towards the end of the course. We reviewed what we had discussed and talked about how to critically view popular media in our future lives.

decided the textual samples, the weekly lesson structure and course schedule, assignments, and any language help. The main bulk of the course followed the students' designed structure while making small adjustments. A final discussion was also planned and carried out towards the end of the course. We reviewed what we had discussed and talked about how to critically view popular media in our future lives.

End-of-Semester Review:

This Nexus course was a very successful application of the method pioneered thus far. We could follow the lesson plan designed by the students at the beginning of the course with only minor adjustments. In this class, ten students joined, including two exchange students from France and Taiwan. The intercultural input that resulted from this dynamic was very positive. As said before, exchange student participation is probably the biggest benefit to any iCoToBa course. In addition, many 2nd year students joined the course, and were able to conquer various setbacks in speaking English through the discussion of a popular topic. The biggest improvement this semester was that in the final lesson, each student prepared a speech about a text of their choice. These were recorded and put into an edited video that can be part of the iCoToBa video archive. These final products seem to be an important element.

*** Intermediate / Advanced Discussion Class: Global News in English**

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Thursday 2nd Period

Objective:

- To improve listening comprehension and vocabulary for news in English.
- To make a habit of reading the news in English and thinking critically about events.
- To practice expressing and defending our opinions about controversial topics.

Course Contents:

This course had two lesson modules which were repeated through alternating weeks. The first style was listening oriented. The teacher played 2 to 3 news broadcasts, while highlighting important vocabulary. Students then wrote summaries of their understanding of the broadcast, which we checked as a class. Afterwards, the students had a discussion about the issues in those broadcasts. The second style was reading and discussion-oriented. Students shared their chosen news articles on a Teams page and presented their view of the issues in class. After a Q&A session, they broke into groups and discussed the issues. In the final week of class, we reviewed

our topics and discussed how to integrate critical news consumption into our lives.

End-of-Semester Review:

This class had the same structure as in the previous semester. I changed the time slot in order to see if such a change would result in an increase in student participation. However, the opposite was the case. Only three students could join, and of these only two joined regularly. These two students were diligent and said that they actually enjoyed the small class setting. However, in the interest of making courses available to more students, this time slot is not good. It appears that Tuesday either 2nd or 4th period slot serve the needs of students better in the current curriculum.

*** American Society on Film**

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Thursday 4th period

Objective:

- To critically analyze and discuss important aspects of contemporary media culture.
- To gain the language skills needed to critically discuss cultural issues in English.
- To build and carry out a course plan designed by the students themselves.

Course Contents:

This was another trial of the Nexus Contemporary Culture Laboratory style of courses (see above) that featured a more difficult topic. At the beginning of the course, an aspect of contemporary culture was presented, and the participating students designed their own course of study for it. For this course, the topic was how American society is depicted in Hollywood films. With the aid of specially designed planning materials and instructor guidance, students decided the textual samples, the weekly lesson structure and course schedule, assignments, and any language help needed. The main bulk of the course followed the students' designed structure while making small adjustments. A final discussion was also planned and carried out towards the end of the course. We reviewed what we had discussed and talked about how to critically view popular media in our future lives.

End-of-Semester Review:

As with the "Genres" class in the previous year, this topic was proposed by a student of a previous course in their evaluation form, and I decided to try it this year. In addition, just like the "Genres" topic, the issue of American society and film requires a higher degree of background knowledge. Therefore, I was careful in guiding the student-led course design. In order to make the course more accessible I opted not to include extra readings for the course. However, I feel like the course would have benefited from more academic rigor, because the students who joined the class appeared very interested in the topic background while also somewhat nervous about discussing the films without a defined framework. It is something to consider for future Nexus courses.

*** :NEXUS Progrm**

【フランス語】

Allons en France! (フランスでの生活を始めましょう!)

担当: Karine ZIMMER

授業時間: 前期・後期 火曜 4 限

授業目的:

フランス語での日常会話がスムーズに行えるようになること。

フランス人の考え方の理解を深めること。

授業内容:

留学の経験の紹介

・日本とフランスの比較についてのさまざまなトピックス(話題・出来事)

・発音の練習

今期の総括:

今期にこのクラスに参加した学生達の多くは、留学先から戻ってきたばかりでした。

会話レベルが高く、会話能力をさらに発展させる授業を行いました。

発音と難しい文法を直したり、フランス人が日常会話で頻繁に使っている表現の紹介や、使い方の説明をしました。それらを沢山練習したことにより、学生達が自信をもって仏検準一級に合格できました。

【スペイン語】

DELE の準備をしよう! ¡Listos para el DELE!

担当: Alvaro OLIVA

授業時間: 前期・後期 金曜 5 限

授業目的:

5月または11月に行われる DELE スペイン語検定試験で A2 または B1 合格を目指し、読解、会話、聴解の練習をすることを目的とする。

授業内容:

DELE スペイン語検定試験の 4 技能、読解力・聴解力・ライティング・スピーキングの向上のため、毎週、スペイン語の復習と上達のための演習を行う。自宅で取り組むための 2 つのスキルを宿題とする。DELE 受験後は、口頭表現と語彙の上達に重点を置く。授業はスペイン語で行う。

El examen DELE es una prueba de dominio del español como lengua extranjera ampliamente reconocido en todo el mundo y es un examen muy importante para los estudiantes de español. En clase, practicaremos las destrezas de lectura, conversación y comprensión oral con el objetivo de aprobar el A2 o B1 en los exámenes DELE de mayo o noviembre.

El examen DELE consta de cuatro destrezas:

- Comprensión lectora.
- Comprensión auditiva.
- Expresión escrita.
- Expresión oral.

Se realizarán ejercicios semanales en clase para repasar y mejorar el uso del español. Los

alumnos recibirán dos destrezas como deberes para trabajar en casa cada semana.
Después de realizar el DELE, nos centraremos en la mejora de la expresión oral y el vocabulario.
Las clases se realizarán en español.

【ドイツ語】

Vorbereitung auf das Auslandsstudium (留学前準備講座)

担当: Martin NIERS

授業時間: 前期・後期 金曜 1 限

授業目的:

海外生活を希望する学生といっても、レベルや特性、モチベーションは異なるが、それぞれが他の国々や文化に興味を持てるように心がけた。また、語学のみならずその国での生活に対する準備として、現地での生活に即した語学や文化の学習をする。さらに、外国での学習形態や方法の違いについても学ぶ。SIM カードの入手方法や銀行口座の開設の方、レンタカーの借り方、チップの渡し方などのすぐに使える情報の提供や今後、外国で仕事を探す際の助けになるような授業を行なう。インターネットリソースや外国語のアプリなどを用いて、日本にいながらできる学習方法や国際的な情報収集についてもアドバイスをを行う。

授業内容:

大学の町

Das Akademische Viertel

メンザアプリ

小さな町リニューネブルクについての詳細な情報を説明。

Spezialitäten aus Baden Württemberg und Norddeutschland

Dialekte: Platt und Schwäbisch, Alemannisch

Neue Begriffe aus der Coronazeit

Studium und Studiengebühren

Asiatische Läden in Deutschland

Autobahn und Autofahren

Alkohol und Brotkultur

Sommerzeit und Traditionen

Eurostadt und Euroregio

Russen, Türken, Araber in Deutschland

今期の総括と課題:

今年は、留学をしないであろう社会人学生が授業に参加していたため、例年とは授業の雰囲気はずいぶん違っていた。留学を前提とした学生は、概ね意欲的に取り組み、国や文化など言語のみならず、その背景にまで興味を持って授業にのぞんでいた。一人は北ドイツへもう一人は南ドイツへの留学だったが、どちらにも十分な準備を整えることができた。講師として、さらに学生の求める学習内容を提供できるように努力したい。

来年度はもっと多くの生徒が授業を受けられると良い。

【中国語】

留学之前话中国(中国事情を語る)

担当：劉 平

授業時間：前期・後期 木曜 5 限

授業目的：

根据学生的实际水平有针对性地进行语言表达训练，结合中国文化、历史、经济、时事等做相应的讲解，以巩固、提高和补充学生在主课上学到的知识。

授業内容：

本期学员为一年级学生，不具备基本的词汇和语法知识，因此从语音练习着手，选择短小的成语和历史人物故事的视频，先视听，再根据文字材料进行朗读训练，通过反复纠音、正音、语意讲解、向学生提示语法点，增强学生的语感和对汉语语法特性的敏感性。

今期の総括と課題：

根据学生的反馈，上述教学内容和方法比较适合一年级学生，也有效地活用了远隔教学的网上资源。后期教学可在此基础上充实更多内容并适当增添一些语法讲解。

2.2.2 英語コミュニケーション講座

Pronunciation Profiles: Fun Class for Beginners and New Students

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Monday 2nd period

Objective:

- To improve pronunciation and intonation, especially of trouble sounds.
- To apply learned pronunciation to natural listening and speaking.
- To look at how personality and emotion can affect pronunciation.

Course Contents:

Students listened to a talk by a famous person and isolated a pronunciation point. After practicing the pronunciation point through drills and games, students returned to the featured person's talk and reproduced the day's point in a larger text.

End-of-Semester Review:

This version of the class saw the largest number of students in recent years: over 35 students in total. We had to move to a bigger room which did not have many of the usual facilities. However, after adjusting to the new situation I was able to continue the class as usual. The participation-to-end rate was surprisingly high. Larger classes usually see a large number of drops by the end of the course, but in this class 28 students continued to the end and completed the final assignment. The fact that almost all students were first-year students from the International and Cultural Studies department probably contributed to this group cohesion. When we can find such open slots in a departmental curriculum, it is always beneficial for iCoToBa.

English: Back to Basics: English Communication Workshop

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Thursday 2nd period

Objective:

- To review some basic points about English grammar and speaking.
- To improve spoken English and reduce errors.
- To gain confidence and fluency in speaking.

Course Contents:

This class featured simple English skills that students had covered in public school. We reviewed points of basic grammar and practiced asking questions to keep a conversation going. This class was a safe space for students who still aren't comfortable with English, as well as a chance for more confident speakers to brush up on the basics.

End-of-Semester Review:

This was the first time to offer this course outside of the Wednesday afternoon slot in many years. As expected, there were far fewer participants compared the large numbers of first-year students that usually join this class at the outset when it is offered on Wednesday afternoon. However, this time slot allowed groups of students who usually do not join iCoToBa classes – students from the Schools of Social Welfare and Information Sciences, as well as older non-English majors in the School of Foreign Studies – to have a chance at an accessible iCoToBa class. The small number allowed for more intimate and extended practice for these students, and their attendance and participation were excellent across the board. Therefore, I think the schedule switch entails a worthwhile trade.

Improve your English Emails: English Academic Writing Workshop

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Monday 5th Period

Objective:

- To understand the structure and style of English emails.
- To be able to write emails in formal and informal registers.
- To learn set phrases to write quickly and politely online.

Course contents:

This short course taught the basics of email communication in English for the modern world. We focused on professional situations, including situations between students and teachers; however, it also included business situations. Basic English reading and speaking skills were presumed. The class included whiteboard explanations, on-paper exercises, and many interactive writing tasks.

End-of-Semester Review:

Although more students signed up, there only two students who actually joined from Day 1. However, these two were a dedicated group attending regularly and fulfilling the writing tasks well, working hard to connect the skills to their future careers. Even in the face-to-face setting, using the Microsoft Teams tools allowed us to share and edit practice emails conveniently. The small number of participants is frustrating, since I see evidence every day that our students need

specific practice for writing emails in English. Perhaps a greater publicity campaign emphasizing students' needs in this area among teachers is necessary.

*** iCoToBa Media Production Lab**

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Wednesday 3rd period

Objective:

- To practice media production techniques
- To do group work in a bilingual context

Course Contents:

This class was based on the drop-in courses of last year, but was changed to a regular weekly class format. I used an English-language media production textbook to learn about and practice basic techniques for audiovisual media production. We also watched film clips to see the techniques in action. Students were invited to join the units that were interesting to them.

End-of-Semester Review:

This semester more students joined the course, so we were able to make two project teams. We also attempted the student-designed curriculum format that I tried in other classes. The idea was for each group to make a "first try" video and get feedback from classmates on it, then use that learning experience to make a new and improved second video. For the first five weeks it worked well and both project teams created their own videos. However, in the second half of the course some students began to be absent, which disrupted the set schedule. The students who remained formed a new group, and these were able to complete the curriculum goals as described. These videos are now part of the iCoToBa archive. Because this class is somewhat labor intensive, the Wednesday afternoon slot, which conflicts with other extracurricular activities, is not a good fit. I will try to shift the scheduling the next time I offer it.

Study English with Movies

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Friday 2nd period

Objective:

- To improve English study skills using movies.
- To become motivated to study English on your own time, in your own way.
- To gain the basic vocabulary for talking about film-viewing in English.

Course contents:

This was a study-skills workshop, where we watched popular movies and used them to try different methods of movie-based English study. We watched three movies in the course. We viewed a single film in full, then chose pieces of it to practice study methods like shadowing, vocabulary hunting, journal entries, and more. Students could vote as a class for which movie they wanted to work with.

End-of-Semester Review:

Through offering this class, I learned that within the current APU curriculum, the Friday 2nd Period slot is convenient for students from the non-English majors in the School of Foreign Studies. This makes it a perfect place to offer this kind of entry-level communication class. I taught the class largely as I had in previous years; however, new streaming services have greatly expanded my options for showing films in class. Therefore, movie selection was conducted more democratically as part of the lesson plan, with students themselves introducing and pitching titles to their classmates as a discussion activity. In addition, tried to include more writing activities, including an English Film Log.

Free Talk for Beginners: Vocabulary Drills and Simple Discussion

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Monday 4th period

Objective:

- To improve fluency of English through practice.
- To get over fears and hesitation over speaking English.
- To learn how to incorporate new vocabulary into speaking.

Course Contents:

This was a simple free talk space aimed at beginner-level English learners. The class was divided into two parts. In the first half, we worked with a short vocabulary list, doing drills to practice using the vocabulary. In the second half, we did free talk using simple discussion topics. The activities were meant to help beginners get over their hesitation about speaking in a foreign language without structured activities.

End-of-Semester Review:

Like the Back to Basics class in the previous semester, I experimented with switching the time slot for this offering. As with that experiment, this change led to a smaller number of participants, but also allowed groups of students who usually do not join iCoToBa classes to have a chance at an accessible iCoToBa class. The group dynamic for this class was the best in recent years. The five members were well-matched in English ability and continued to encourage each other's improvements, which allowed me to put in more difficult vocabulary sets and topics toward the end of the course. In addition, they formed visible emotional bonds with each other, and they vowed to remain as "friends from English class," which was heartwarming to see as a teacher. As in the previous year, I integrated performance exercises at the beginning of each lesson.

Real-Life Academic Discussions

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Tuesday 4th period

Objective:

- To learn and review the elements of conversation and discussion.

- To improve fluency and vocabulary by talking about a wide variety of academic and social topics.
- To memorize common phrases used in academic discussion in English.

Course Contents:

This class was designed for students who had mastered basic English communication and wanted to prepare for university life abroad. It featured skill-building lessons to focus on discussion skills, as well as free discussion prompts on academic topics or current events. We broke into small groups to talk freely about each topic. The teacher gave vocabulary and phrases which could help students express their ideas about the topic more clearly and accurately.

End-of-Semester Review:

I added this 10-week academic discussion class to the Tuesday 4th period slot because I wanted to include a course offering that directly matched the needs of students in the British & American Studies major, since this gap was pointed out to me by professors in that department. The course seemed to start out well, with an average of 8 students joining and participating actively. However, by about the fifth week the enrollment suffered the fate of all intermediate discussion classes in recent years, with student absences severely disrupting the flow of activities. Unfortunately, the students with the worst attendance were the British & American Studies students who joined. It seems that even at an appropriate time slot, iCoToBa courses do not fit their schedules and/or interests. I have come to the conclusion that general English discussion classes are not the way for iCoToBa to move forward; intermediate and above classes need to have defined and attractive subject matter, such as the Japanese Popular Culture courses.

*** University-Wide Media Project: Disaster Awareness Talks and Videos**

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Wednesday 3rd period

Objective:

- To produce a series of interdisciplinary talks between professors and create a video from the footage
- To help students apply English skills while learning media production skills.

Course contents:

This project was part of the Global Strategy Office initiative to increase interdisciplinary collaboration across our departments and schools, which I turned into a PBL course with student volunteers. In this project, our student team worked together to produce a series of interdisciplinary talks between professors on the topic of “Disaster Awareness.” Using English language materials, we studied techniques for conducting and filming interviews, designed the talk contents ourselves, carried out the talks, and are editing the results.

End-of-Semester Review:

Four students from various departments joined the course, and during the course of the semester we have successfully conducted 2 fruitful talks. Each talk featured 3 professors from different

schools and departments of the APU system. The first talk focused on the social policy aspects of disaster awareness; the second talk focused on the cultural aspects. The students were excellent and kept up with the immense workload. The particular difficulty of this project was to create a series of talk questions that could match with the specific fields of each participating professor while creating a common reference between them. Our meeting sessions required in-depth readings of professors' works, as well as the creation of concept maps, before arriving at the actual talk content and questions. We also learned and developed both our interview techniques and our filming techniques as we progressed. In particular our first talk did not provide the participants with a comfortable enough situation to decrease nervousness and encourage casual communication. We rectified this in the second session by changing our question structure, re-arranging the shooting layout to encourage conversation, and also by including a pre-talk icebreaking session. We are currently involved with the editing phase as the semester ends. Early in the next semester (April) we will hold a presentation to show the full results of our work and the unveiled videos.

Plan a Trip in English: Applying your English to your Travels

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Friday 2nd period

Objective:

- To understand the basics about independent travel.
- To learn English vocabulary and phrases related to traveling.
- To practice using printed and online materials in English.

Course Contents:

The ethos of this course was that planning a trip is a fun way to improve practical English skills. Therefore, this workshop-style project-based learning class guided students through the process. We practiced booking flights and hotels, reading guidebooks, and making travel itineraries. We also discussed travel safety and other issues. At the end of the class, students presented their self-designed trips to their classmates.

End-of-Semester Review:

As with the Study English with Movies class in the previous semester, this time slot was a convenient gathering point for non-English majors. Indeed, many of the first semester's students returned for this class. There were 14 students, most of whom were first-year students, joined this course. This is a high number for the second semester offerings, and does not count the one student who dropped out mid-semester. The remaining students were active throughout the semester, even with a very irregular Friday schedule this year, and completed their final trip plans for sharing in the final lesson. These are all good hints for scheduling low-level classes in the future.

* :NEXUS Program

2.2.3 地域コミュニティ言語講座

教室における異文化コミュニケーション: 考慮すべき文化的・言語的側面

Comunicación intercultural en el aula: aspectos culturales y lingüísticos a tener en cuenta.

担当: 宮多良 ディスネル

授業時間: 9月19日(火)3限・4限、9月20日(水)2限～4限

授業目的:

En este curso exploraremos las similitudes y diferencias en los sistemas educativos de Perú y Japón, destacando sus enfoques pedagógicos, currículos, valores culturales y desafíos actuales. A través de análisis, comparativos, estudios de caso y discusiones interactivas, los participantes obtendrán una visión más profunda de cómo las escuelas de ambos países abordan la educación. Además, exploraremos la situación de los niños hispanohablantes en las escuelas japonesas, así como los retos que afrontan para su integración a la sociedad japonesa, lo cual nos ayudará a comprender los desafíos de la sociedad global actual.

本講座では、ペルーと日本の教育システムの共通点と相違点を探り、教育学のアプローチ、カリキュラム、文化的価値観、そして教育における現在の課題に焦点を当てる。また、分析、比較、ケーススタディや双方向のディスカッションを通して、受講者は両国の学校がどのように教育に取り組んでいるかを深く理解できるようになる。さらに、日本の学校におけるスペイン語圏にルーツのある児童生徒の状況や、彼らが日本社会に溶け込む際に直面する問題を考察することで、今日のグローバル社会における課題を理解する一助となる。

授業内容:

第1回 La educación en Perú. / ペルーにおける教育

第2回 La educación en Japón. / 日本における教育

第3回 Los estudiantes extranjeros en Japón (Lengua).

日本における外国人児童生徒について(言語編)

第4回 Los estudiantes extranjeros en Japón (Cultura).

日本における外国人児童生徒について(文化編)

第5回 Hacia una sociedad multicultural a partir de la localidad.

地域から発信する多文化共生社会へ

今期の総括と課題:

¿Has conocido a algún hispanohablante fuera de la universidad? Si aún no lo has hecho, déjame decirte que, en Japón, aparte de los turistas hay muchos extranjeros que viven y son nuestros vecinos. ¡Ven y conoce más sobre ellos!

教育分野スペイン語入門講座

担当: 金箱 亜希

授業時間: 木曜日 4限(11月23日、30日、12月7日、14日)、5限(12月21日)

授業目的:

教育現場において、スペイン語圏の児童生徒や保護者を支援する際に必要な知識、語彙や表現を学ぶ。また、他国の教育システムを学ぶとともに、通訳や翻訳をする際に注意する点を理解する。

授業内容:

- 第1回 「外国人児童生徒の背景」と「持ち物の言葉」
- 第2回 「教科用語と生活言語の違い」と「行事の言葉」
- 第3回 「母語の大切さ」と「教科の言葉」
- 第4回 「外国人保護者への対応」と「進路の言葉」
- 第5回 「各国の教育システム」、スペイン語実践

今期の総括と課題:

現場で支援するために必要な知識をテーマ分けし事例などを提示しながら学習した。また、翻訳や通訳しにくい言葉や表現について、個別で考える、ペアで話し合う、全体で考えるなど、様々な学習形態で学習することにより、個々のペースで理解を深める時間を確保しつつ、ペアや全体学習で、異なる視点や意見を共有し、新たなアイデアや理解が生まれやすい学びの環境を意図した。第5回は、スペインからの留学生と会話する機会を設けて、学んだことを実践する場を設けた。

文化・生活分野中国語入門講座

食文化から学ぶ中国語講座

担当:方 曉娟

授業時間:前期・後期 火曜日 4限(6月6日、13日、20日、27日、7月4日)
(11月14日、21日、28日、12月5日、12日)

授業目的:

この授業の目的は中国の食文化を通して中国語を勉強することである。
中国には、昔から「民は食を以て天と為す」という言葉があります。
身近な食文化からスタートして、中国語を勉強し、中国料理と文化の奥深さを知ると同時に簡単な会話を話せるようになります。

授業内容:

- 第1回:中国料理「料理名を中国語で言えますか」
- 第2回:中国の点心「食べたことがありますか」
- 第3回:中国のお茶「美味しいですか」
- 第4回:中国の米と麺料理「上手に作れますか」
- 第5回:中国本場の水餃子作りに挑戦する

今期の総括と課題:

総括:毎回の授業内容のプリントを学生に事前に配り、中国料理と文化の奥深さを教え、また履修者は中国語初心者の場合でも料理に関する中国語会話を少しできるように楽しく授業を行いました。最終回の水餃子作りは学生達の協力でもとても順調にできました。
課題:食文化を教えると同時に学生達がより多く中国語会話をできるように教えること。

韓国朝鮮語 CoTo はじめ超入門編～まずはハングルをマスターしよう～

担当: 姜 信和

授業時間: 水曜日 4 限(6月7日、14日、21日、28日、7月5日)

授業目的:

本講座の目的は、初めて韓国朝鮮語を習う受講生を対象に文字(=ハングル)と発音から丁寧に学ぶところにあった。さらにハングルの学習と並行して、単語を入れ替えて簡単な会話を楽しむことを目標とした。授業ではこれらの練習を通して、韓国の流行や文化の特徴も垣間見られるように映像もふんだんに取り入れた。以下は各回のテーマである。

授業内容:

第1回(6月7日) ハングル概説、これは何ですか

第2回(6月14日) どちら様ですか

第3回(6月21日) 水正果(スジョングワ)、ひとつください

第4回(6月28日) とてもお腹が空いています

第5回(7月5日) これは景福宮(キョンボックン)です

今期の総括と課題:

昨年度に引き続き、入門編と初級編の2クラスにレベル分けして講座が開設されることになり、授業運営を滞りなく行うことができた。そして今学期も、講義内容を「超」入門編に振り切ったことで、まずはハングルに慣れて音価の習熟に集中できたこともよかった。言及するまでもなく、これまで同様に受講生たちは向学心にあふれ積極的で、担当者としては嬉しくありがたい限りであった。

その他、今回はアンケートの回収率が低かったため、今回は授業内で十分に協力を要請したことにより、相応数の回答を得られた。回収できたアンケート結果による受講生の授業評価も良好であることから、本講座の目的は一定程度、果たせたものとする。

最後に、愛着ある愛知県立大学における iCoToBa の「地域言語コミュニティ講座」という学びの機会を持続的に確保していただき、授業に係る教育環境を整えてくださるご担当関係部署の方々に心より感謝申し上げます、今期の授業報告のまとめに代えたい。

観光・文化分野 ～관광 · 문화 분야～

韓国朝鮮語 CoTo はじめ～初中級編～

担当: 金 芝恵

授業時間: 木曜日 3 限(6月8日、15日、22日、29日、7月6日)

授業目的:

この講座は韓国語の文字であるハングルを理解している人を対象とした授業です。まず平易な日常会話が聞き取れ、自ら表現できるようにします。また具体的な場面を設定し、その場面での自然な会話ができるように練習していきます。この授業を受けることによって、韓国語母語話者と、よりスムーズな会話ができるようにすると同時に、韓国の社会や文化、生活面についての理解も深めていくことを目標とします。

授業内容:

第1回(6月8日) 挨拶と自己紹介

第2回(6月15日) 韓国語で数字を言ってみよう

- 第3回(6月22日) コーヒー、一つください
- 第4回(6月29日) 韓国の食べ物を言ってみよう
- 第5回(7月6日) 韓国料理が好きです

今期の総括と課題:

今回集まった参加者はハングルを理解している学生で、レベルの差はありましたが授業を進めていくことに大きな支障はありませんでした。そして参加者は韓国・韓国語に関心が高く、その上少人数だったので授業の趣旨をよく理解した上で積極的に授業に参加していたと思います。授業内容は、まず教師が用意したテキストの内容に沿って基本練習をした後、ゲームやペアでの練習を通して定着させ、参加者それぞれのニーズに合わせて自由に表現できるようにしました。学生達が積極的且つ活発に授業に参加してくれたので教師としては良い雰囲気の中で楽しく授業を進められたと思います。

韓国朝鮮語 CoTo はじめ超入門編～まずはハングルをマスターしよう～

担当: 姜 信和

授業時間: 水曜日 4 限(11月15日、22日、29日、12月6日、20日)

授業目的:

本講座の目的は、初めて韓国朝鮮語を習う受講生を対象に文字(=ハングル)と発音から丁寧に学ぶところにあった。さらにハングルの学習と並行して、単語を入れ替えて簡単な会話を楽しむことを目標とした。授業ではこれらの練習を通して、韓国の流行や文化の特徴も垣間見られるように映像もふんだんに取り入れた。以下は各回のテーマである。

授業内容:

- 第1回(11月15日) ハングル概説、これは何ですか
- 第2回(11月22日) どちら様ですか
- 第3回(11月29日) ナツメ茶、ひとつください
- 第4回(12月6日) とてもお腹が空いています
- 第5回(12月20日) これは景福宮(キョンボックン)です

今期の総括と課題:

今回は反省点が多い。貴重な機会であるにもかかわらず、いつもとは様相が違い学生の応募がとても少なかったからである。原因は果たしてどこにあったのかと省みている。引き続き機会に恵まれるならば、学習内容を練り直して工夫をこらし、十全に広報もして努力しようと考えている。とはいえ悪いことばかりではなかった。少人数ではあったものの、これまで同様に受講生たちは向学心にあふれ熱心であった。講座がスタートした後に、登録申請には間に合わなかったが聴講したいという学生もあらわれた。最終日には、授業後にささやかな茶話会を催すこともできた。最後に、このような状況下にあっても変わりなく、第一に学生を思いやり、教授しやすい環境を整えてくださるご担当関係部署の方々には心より感謝申し上げて、今期の授業報告のまとめに代える次第である。

文化・生活分野 ～문화와 생활～

韓国朝鮮語 CoTo はじめ～初中級編～

担当: 金 芝恵

授業時間:木曜日 3 限(11 月 16 日、23 日、30 日、12 月 7 日、14 日)

授業目的 :

この講座は韓国語の文字であるハングルを理解している人を対象に、初級レベルでの会話ができることを目標とします。日常生活でよく使う挨拶表現からはじめ、2 種類の数詞を習い、物の数え方が分かって、買い物などができるようにします。さらに、韓国料理を食べに行ったり、街の中で韓国人に道を尋ねたりする具体的な場面を設定することで、より臨場感のある会話の練習をしていきます。そしてペアワークやネイティブの教員との会話を通して、より話す力や会話に対する自信が持てるようにします。授業の中では会話の練習だけではなく、韓国の文化や K コンテンツ関連の話に触れながら韓国に対する興味や理解も高めていきます。

授業内容:

- 第 1 回(11 月 16 日) はじめまして
- 第 2 回(11 月 23 日) コーヒー、一つください
- 第 3 回(11 月 30 日) 韓国料理が好きです
- 第 4 回(12 月 7 日) 今日、何を食べましょうか
- 第 5 回(12 月 14 日) コンビニはどこですか

今期の総括:

今回の講座に参加した学生のレベルは様々で、予定していたレベルよりは少し易しい、入門レベルの内容から始めました。すでにできる学生は退屈するのではと心配しましたが、互いに教え合いながら和気あいあい良い雰囲気のなかで楽しく学習することができたと思います。会話の練習では自己紹介からはじめ、数詞を学び、更にロールプレイを通し買い物、お店での注文などを学び、自分のレベルに合わせた表現でそれぞれ授業に参加することができたと思いました。少人数の授業だったため、日頃持っていた疑問点や独学では解決できなかったことなどを質問し解決でき、学生達がそれぞれ関心のある分野なども共有することで参加者は互いに良い刺激を受けたと思います。

初めてのベトナム語入門講座

担当: グェン タン タム

授業時間:水曜日 3 限(5 月 31 日、6 月 7 日、14 日、21 日、28 日)

授業目的:

- ベトナム語の表記と発音の基本を知り、読むことができる。
- ベトナム人と挨拶し、友達関係を築くことができる程度の簡単なやりとりができる。
- 日本の周辺国の一つであるベトナムの国・人・文化に親しみ、友好的な姿勢を育む。

授業内容:

本講座の内容はベトナムとベトナム語に興味を持つ学生の関心に応じて、作成したものであります。授業では映像化のパワーポイント教材を使用し、ベトナムについての知識及びベトナム語の基本・日常会話といった2つの内容を伝えていきます。

各回のテーマは下記の通りであります。

- 第 1 回 ベトナムの基本知識・あいさつ
- 第 2 回 ベトナムのユニークな所・自己紹介

- 第3回 ベトナムの料理・注文
- 第4回 ベトナムの旅行・買い物
- 第5回 ベトナムの若者のライフスタイル・友達づくり

今期の総括と課題:

本講座では受講生がベトナム語のみならず、ベトナムの基本的な背景知識を理解することを目指して工夫を凝らしました。毎回の授業では、学生との対話を重視し、双方向のコミュニケーションを大切にしました。ベトナムの自然や名物、歴史、文化の特徴などを写真や動画を交えて紹介しました。また、受講生の興味や疑問に応じて、レッスンの内容を調整し、関連する事柄を詳しく説明しました。

ベトナム語の学習においては、正しい発音や表記方法に丁寧に取り組みました。初めに簡単な言葉から始め、基本的な文法と語彙を学びながら、句読点や発音のルールを実践的に練習しました。発音については、繰り返しの練習を行いました。また、実際の会話を活用して、楽しく文法と語彙を身に付けるアプローチを導入しました。具体的には、相手の性別や年齢に応じた挨拶の方法、料理の注文手順、値段的尋ね方、ベトナムの友達作りに役立つ簡単なコミュニケーション手法などを、講師とクラスメートのペアで実践しました。受講生からは、本講座を通じてベトナムを身近に感じることができ、さらに深く知りたいという意欲的な声を多くいただき、大変嬉しく思います。

初めてのベトナム語入門講座

担当: グェン タン タム

授業時間: 水曜日 3限(11月15日、22日、29日、12月6日、13日)

授業目的:

- ベトナム語の表記と発音の基本を知り、読むことができる。
- ベトナム人と挨拶し、友達関係を築くことができる程度の簡単なやりとりができる。
- 日本の周辺国の一つであるベトナムの国・人・文化に親しみ、友好的な姿勢を育む。

授業内容:

本講座の内容はベトナム語に興味を持つ学生の関心に応じて、作成したものであります。授業では映像化のパワーポイント教材を使用し、ベトナムについての知識及びベトナム語の基本・日常会話といった2つの内容を伝えていきます。

各回のテーマは下記の通りであります。

- 第1回 ベトナムの基本知識・あいさつ
- 第2回 ベトナムのユニークな所・自己紹介
- 第3回 ベトナムの料理・注文
- 第4回 ベトナムの旅行・買い物
- 第5回 ベトナムの若者のライフスタイル・友達づくり

今期の総括と課題:

本講座では、受講生がベトナム語だけでなく、ベトナムの基礎知識も理解できるように心掛けました。授業では毎回、学生との相互コミュニケーションを重視し、ベトナムの自然や名物から歴史・文化の特徴までを写真や動画を交えて紹介しました。また、受講生の興味や疑問に対応するため、レッスン内容を彼らの関心事に合わせて説明しました。

さらに、ベトナム語の表記と発音についても詳細に説明し、受講生がある程度正確に1～数語から成る文を読み上げられるようになるまで練習させました。発音の繰り返し練習の中で、受講生がベトナム語のやや複雑な音節や声調に苦戦する場面もありました。そのため、応用性が高いと考えられる実践的な会話を導入し、楽しみながらベトナム語の発音・文法・語彙を覚えてもらいました。講師とのロールプレイを通じて、相手の性別・年齢・人間関係に応じた挨拶や料理の注文の仕方、物の値段の聞き方、そしてベトナム人と友達関係を築くための簡単な対話を受講生に実践させました。

*「コミュニティ通訳」ってなに？どうやってなるの？

担当: 吉田 理加

授業時間: 水曜日 4限(5月17日、31日、6月21日、28日、7月5日)

授業目的:

コミュニティ通訳とは日本に暮らす誰もが言葉の壁を感じずに情報にアクセスできるように言語権を保障するものであることを理解すること。そのうえで、災害時に非常食を安全に食べる(宗教やアレルギーで食べられないものを同定できる)方法を留学生とやさしい日本語で考える。この経験を通して、受講生がコミュニティ通訳について知り、考えるきっかけとする。

授業内容:

第1回(5月17日) イントロダクション・災害時の多言語情報発信

第2回(5月31日) ポスター・アンケート作成

第3回(6月21日) 多言語での広報(アウトリーチ)を考える

第4回(6月28日) 留学生と一緒に非常食を安全に食べ、災害時にどう行動するべきかをクイズで学び、多言語発信のありかたを考える

第5回(7月5日) まとめと振り返り グローバルセミナーとして発表・報告

今期の総括:

受講生が積極的に取り組み、留学生に事前アンケートを実施し、留学生の協力を得て非常食を食べる会が実現でき、留学生にとっても受講生にとっても、コミュニティ通訳ならびに災害時の多言語対応について意識化し、学ぶきっかけとなった。

*「コミュニティ通訳」ってなに？どうやってなるの？

担当: 吉田 理加

授業時間: 10月18(水)4限、11月1日(水)3・4限、22日(水)3・4限

授業目的:

外国人留学生など日本の制度や言語・文化・慣習に慣れ親しんでいない方々が、安心して安全に暮らせるために知っておくべき情報を「安全講話」として愛知県警察本部の警察官がレクチャーします。そのレクチャーをパナガイド(無線通訳機)を用いて、多言語(中国語、韓国語、フランス語、英語、スペイン語、ポルトガル語)に通訳をし、外国人留学生の理解の向上につなげると同時に、留学生と日本人学生が協力し合い、コミュニティ通訳の仕方について知識とスキルを学ぶことを目的にする。

授業内容:

第1回(10月18日) コミュニティ通訳とは何か

第2・3回(11月1日) 警察の安全講話を通訳するための準備、パナガイドの使い方
第4・5回(11月22日) 警察による安全講話の多言語への通訳とふりかえり

今期の総括:

前期、後期ともに日本人学生と留学生が協力し合って、コミュニティ通訳のテーマに取り組み、実践練習をした。日本語母語話者が非母語話者を一方的に支援するのではなく、互いに学びあう関係性の構築に、コミュニティ通訳の学びが一助となったことを願う。

* :NEXUS Program

2.2.4 語学検定試験対策講座

TOEIC Clinic (TOEIC Beginners): TOEIC Workshop

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Monday 5th period

Objective:

- To become familiar with the kinds of questions on the TOEIC test.
- To improve vocabulary and comprehension as related to standardized testing.
- To understand more about the business culture of the English-speaking world.

Course Contents:

This short course served as an introductory course for TOEIC practice. The teacher explained basic strategy for the various parts of the TOEIC. After taking portions of the test, the students asked questions to the teacher about grammar, vocabulary etc.

End-of-Semester Review:

The Monday 5th Period slot remained a well-attended slot for the TOEIC preparation classes. As in previous years, the class is mainly attractive to first and second-year students who have little experience with the TOEIC. The branding of this course seems to be working. Therefore, I was able to conduct the course as usual, with no major adjustments.

TOEIC Clinic ONLINE

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Monday 4th period

Objective:

- To become familiar with the kinds of questions on the TOEIC test.
- To improve vocabulary and comprehension as related to standardized testing.
- To understand more about the business culture of the English-speaking world.

Course Contents:

This short course served as an introductory course for TOEIC practice. The teacher explained basic strategy for the various parts of the TOEIC. After taking portions of the test, the students asked questions to the teacher about grammar, vocabulary etc.

End-of-Semester Review:

We kept the online version of the class to accommodate students from other campuses,

including the Arts University and the School of Nursing. However, almost all the students who joined this online class were students who spend time at the Nagakute campus, and joined the class from here. Unless we can coordinate with faculty at these campuses regarding which time slots are valuable, the online format seems even more redundant than before. In fact, since our schedule at iCoToBa is based on the Nagakute campus schedule, it seems unlikely that this online offering will meet the off-campus needs it presumes. Face-to-face slots for the TOEIC class should be fine.

TOEIC Strategies: 10-Week Course

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Monday 5th period

Objective:

- To become familiar with the kind of language on the TOEIC test.
- To improve vocabulary and comprehension as related to standardized testing.
- To understand more about the business culture of the English-speaking world.

Course Contents:

This class was for students who already have some experience with the TOEIC. Using sections from an ETS-Oxford test preparation book, we went into detail about strategies for taking the TOEIC test. We spent most of the time trying out various time-saving techniques, as well as practicing best-guess strategies. We also studied important grammar points and developed semantic flexibility.

End-of-Semester Review:

This longer TOEIC course worked very well again, although with a smaller number of participants than in previous years. As discussed in the previous end-of-year report, I continued with the 公式 style of TOEIC instruction for this term, since it prepares students for their future experiences with TOEIC in the Japanese workplace. Based on feedback from previous students, I also was able to include more useful realistic time-management and preparation strategies during this class. I will try to make those part of the lecture the next time I offer it as well.

TOEIC Clinic (Separate Sessions)

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Monday 6th period November 27th & December 4th, Thursday 5th period November 30th, December 7th & 14th

Objective:

- To become familiar with the kinds of questions on the TOEIC test.
- To improve vocabulary and comprehension as related to standardized testing.
- To understand more about the business culture of the English-speaking world.

Course Contents:

This short course served as an introductory course for TOEIC practice. The teacher explained

basic strategy for the various parts of the TOEIC. After taking portions of the test, the students asked questions to the teacher about grammar, vocabulary etc. This course was connected to an iCoToBa-based program for funding eligible students' TOEIC test fees.

End-of-Semester Review:

For this version of the TOEIC Clinic 2nd Semester short course was conducted in separate periods as before. This has been a necessary method because this course was connected to funding eligible students' TOEIC test fees. In addition, continued student participation across different sessions was higher than in previous years, and even students who could not attend all the sessions asked to review the materials. In other words, the involvement of students was better than in previous years. The reasons for this improvement are unclear, however.

英語力強化集中講座(夏季)

授業時間:9月12日(火)~22日(金)9:30~11:00、11:10~12:40

リスニング&スピーキング 9 講座、リーディング&ライティング 6 講座

英語力強化集中講座(春季)

授業時間:2月5日(月)~14日(水)9:30~11:00、11:10~12:40、13:30~15:00(2/14のみ)

リスニング&スピーキング 10 講座、リーディング&ライティング 5 講座

担当: 福田 薫

授業目的:

本集中講座の目的は、資格試験対策のテクニック習得によるスコア向上ではなく、英語スキル自体の発展、すなわちリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのスキル全般の発展を主眼とし、その結果としてのスコア向上への寄与を図ることである。特に、リスニング、スピーキングといったオーラルのスキル向上に重点を置き、そのトレーニングを豊富に用意することで、英語能力全般の改善を目指す。

授業内容:

夏季は受講者が多く、その中に TOEIC の受験を予定している学生も一定数含まれていたため、英語能力の向上を基本としつつ、ある程度 TOEIC に向けた内容の授業をアレンジした。ただし、受講者からはスピーキングの機会を多く持ちたいとの希望もあり、それにも応えられるよう意識した。リスニング&スピーキングに関しては、オンラインで提供されている英語ニュース動画等を学習素材として用いた聞き流しや、その内容の聞き取りをおこなった。さらに、現代社会における各種問題(環境、IT 技術、言語、人間関係等)をトピックとして 3-4 人のグループによる英語ディスカッションを毎回実施した。この英語ディスカッションは、導入として前述のオンライン上の英語学習素材を使用し、受講者は講師が示した複数の論点を参考に議論を進めるという形式(なお、講師は各チームに適宜参加しながら、ファシリテーター的役割で議論の活性化を促す)であるが、学習素材に含まれる語彙やイディオムを用いた例文作成、各グループのディスカッションの要約作成・発表についても随時受講者に取り組みせることで、ライティングの学習機会としての側面も併せ持つ。リーディングでは、TOEIC 公式問題集の長文問題の多読をおこなった。多読にあたっては、受講者に音読させ、様々な英語表記の読み方・発音の確認もおこないながら、ある程度の長文が読解でき

るようになることを目指した。また、受講者の知識や理解の拡充に資するよう、文中の単語やイディオムの説明、それらの類義語、反意語、関連表現等についても適宜説明を付加し、多読と精読を兼ねるような形でリーディングの授業を展開した。最終日は公式問題集の試験(模試)を実施し、実際の TOEIC と同じ状態での試験を経験する機会を設け、終了後に自己採点と見直し、質疑応答等をおこなった。

春季は受講者数も少なく、資格試験対策よりも英語のスキルアップをしたいとの学生の希望があり、英語能力全般の発展が涵養できるように授業をアレンジした。夏季と同様オンラインで提供されている英語ニュース動画等を学習素材として使用した聞き取り(ディクテーション)やグループ・ディスカッション等、オーラル能力のスキルアップを中心に、長文の多読・精読、それに付随したライティングのトレーニングを実施した。

今期の総括と課題:

この英語力強化集中講座を担当するのは今回が初めてであること、受講者の顔ぶれは全学の学部 1 年生から大学院生まで幅広く、その英語能力や受講目的は一様ではないこと等の理由から、用意していた授業内容を適宜受講者の希望に応じてアレンジし、手探りで授業のデザイン・運営を調整していくこととなったが、授業目的は一定程度達成できたのではないかと。試験対策に走るよりも英語能力の発展が肝心であり、それが資格試験でも相応の結果をもたらす、という点はおおよそ受講者とも共有でき、それに沿った内容を実施できたと思う。特に独学では難しいオーラル能力の実践機会を豊富に用意することで、回を重ねる毎に受講者の英語コミュニケーションへの抵抗や羞恥は少なくなり、能動的・積極的に英語を話し、議論できるようになった。とはいえ、TOEIC 受験を控えた受講者が含まれる場合もあり、ある程度 TOEIC 対策についても目配りが必須となる。TOEIC はリスニングとリーディングから構成されることから、夏季の授業ではライティングについてほとんどトレーニングできなかった点が課題である。この点を考慮し、春季ではリーディングにライティングも付随させているが、受講者の TOEIC のスコアアップの希望が強い場合は TOEIC 対策に傾斜しがちとなり、関係ないスキルのトレーニングの割愛につながりかねないため、資格試験対策としてのトレーニングと英語能力自体の向上という両者の兼ね合い、バランスのとり方には注意を払う必要がある。

DELE B2 の準備をしよう!

授業時間:金曜日 5 限(10 月 13 日、20 日、27 日、11 月 10 日、17 日)

担当:レニン グティエレス

授業目的:

DELE スペイン語検定はスペイン 教育・職業訓練省の下に実施され、有効期限が無く、1989 年から始まった試験である。ヨーロッパ言語共通参照枠 MCER(CEFR)が定める A1 から C2 レベルまでの試験を実施している。本講座では B2 レベル合格を目標として、3 技能のレベルアップを図る。

CAPLE(外国語としてのポルトガル語検定試験)に挑戦しよう!

Vamos prestar o CAPLE!

授業時間:前期・後期 水曜日 4 限(5 月 17 日~11 月 15 日 全 15 回)

担当:メロ ワジソン

授業目的:

ヨーロッパ言語共通参照枠の A2 レベルのポルトガル語能力を測定し認定する CIPLE という CAPLE (外国語としてのポルトガル語検定センター) の試験対策を教える。

授業内容:

ポルトガルのポルトガル語を扱う試験であるから、最初はブラジルのポルトガル語を主に勉強してきた学生のために、ポルトガルのテキストや生教材を使いながら、多くの練習を行い、両国のポルトガル語の違い(文法、語彙など)を覚え、ポルトガルのポルトガル語に慣らす。その後、過去にあった CIPLE の試験を使い、試験問題を解説する。

今期の総括と課題:

CIPLE はコミュニケーションスキルも重要な要素である。今後の講座では、実際の対話やグループディスカッションを通じて、学生たちの口頭表現力や聴解力を向上させるアクティビティを増やすことを考慮する必要がある。また、試験の形式や内容が変更される可能性があるため、講座は最新の情報に基づいてアップデートされる必要がある。これにより、学生たちが最新の要件に対応できるようになる。これらの課題を踏まえ、今後の講座ではより効果的なポルトガル語学習環境を提供し、学生たちが CIPLE 試験に自信を持って挑戦できるように取り組んでいくことが重要である。

日本語能力試験対策講座

授業時間:月曜日 4 限(10月23日、30日、11月13日、20日、27日)

担当:池谷 日都美

授業目的:

過去問題や実践問題の演習を通して、それぞれの問題の解き方に慣れ、また出題範囲内で未習の、文法・語彙の習得を目指す。レベルの異なる学習者が集まったため、それぞれのレベルに応じ、目的を設定した。

【N3】今後の受験のために、N3 で必要な文法事項を把握し、習得に努める。

【N2】2023 年 12 月に N2 を受験予定であったため、漢字問題を中心に実践問題に取り組み、点数アップにつなげることを目指す。

【N1】特に語彙と読解が苦手であると感じていたため、読解の練習を中心に、そこで扱われている語彙の確認を一緒に行うことで、語彙力の強化も図る。

授業内容:

日本語レベルで①N1、②N2、③N3 の 3 つのグループにわけて問題に取り組んでもらい、進捗に合わせて答え合わせと解説を行った。

N1 は長文読解の問題を扱い、文章の内容理解や、語彙、文法の確認、問題の解説を行った。N2 については、試験直前ということで試験と同じ形式の問題に数多く取り組み、不正解だった問題について解説を行った。また、不正解だったものを集め、復習として次の授業で再度解いてもらい、定着を図った。N3 はまずどの程度文法が理解できているのかを練習問題で確認し、不正解だった問題を使いながら文法解説を行った。

今期の総括と課題:

今回実際に JLPT を受ける予定の受講者は 1 名で、その他の受講者は、ゆくゆくは JLPT

を受ける予定であり、どのような問題か知りたい、今から勉強を開始したいという希望を持って受講していた。また、日本語のレベルについても、過去に受験した経験から自分のレベルが把握できている受講者から、JLPTを受験したことがなく自分のレベルを把握できていない受講者まで、さまざまであった。少人数であったため個別のニーズに合わせて対応することができ、その結果、アンケート結果にも見られるように満足度の高い講座を展開することができた。一方で、授業外の課題を望む声も聞かれた。今後もレベルや目的、希望する内容などが異なる受講者が集まる可能性があると考えられるため、早めの、そしてきめ細かいニーズ調査が必要になるのではないかと考える。

2.2.5 イベント・ワークショップ型講座

iCoToBa Open Screen

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Wednesday 4th & 5th periods

Objective:

- To have an English-language movie screening regularly at Kendai
- To shift iCoToBa's public activities towards a more drop-in form.

Course Contents:

This was a weekly movie screening featuring English-language movies. Each week I showed a film after giving a short introduction to it. Afterwards, participants engaged in a short discussion.

End-of-Semester Review:

In this semester I extended the time slot to two full class periods. This allowed us to watch longer movies and to have a longer discussion time afterwards. This format is probably the best way to carry out the screenings. Though still not ideal, there were increased numbers of participants throughout the screenings, including a core group of regular attendees and one or two extra attendees each time.

iCoToBa Open Screen

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Wednesday 4th & 5th periods

Objective:

- To have an English-language movie screening regularly at Kendai.
- To shift iCoToBa's public activities towards a more drop-in form.

Course Contents:

This was a weekly movie screening featuring English-language movies. Each week I showed a film after giving a short introduction to it. Afterwards, participants engaged in a short discussion.

End-of-Semester Review:

In this semester I tried to link the film viewing to the American Society on Film course, in order to guarantee a set number of students. I showcased movies that depicted American society. However, this did not succeed, since the Wednesday slot did not match the current students'

schedules, and there was little interest in that topic from elsewhere in the university. Consequently, attendance was poor. I will have to return to the original plan of showing newer and more popular films starting next semester.

iCoToBa Summer Casino and Film Screening

Instructor: Brett HACK

10:30-16:00 on September 25th -27th

Objective:

- To conduct an iCoToBa summer session at Kendai
- To shift iCoToBa's public activities towards a more drop-in form.

Course Contents:

In addition to film screenings as before, I offered sessions of travel photo sharing in English and chances to play casino-style games such as poker, blackjack, and cribbage.

End-of-Semester Review:

The film screenings were not popular, but some students did join the casino game sessions and had fun. I wonder about the necessity of these summer programs, but in the meantime, I will think of new offerings to the best of my ability.

受講者の声

外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語・ポルトガル語圏専攻
スペイン語コース1年 長嶺 あやめ

この講座ではヨーロッパへの旅行を想定し、チケットの購入から実際にどこへどんなルートで行くかにいたるまで英語で学びます。授業では小さなグループでディスカッションをしたりリスニング問題を解いたりします。現地での食事や宿泊、旅行中に起こりうるハプニングなど毎回様々なトピックが扱われます。特に私は渡航歴がないので講義中に学ぶことが多くとても有意義な時間でした。また他学科の学生との交流の中で専攻言語でない言語に触れることもできました。もちろん外国語学部以外の学生も受講しています！旅行の予定がある人や旅行先でのホテルの探し方を知りたい人、旅行中スリに遭いたくない人必見のクラスです。
(英語で自分の海外旅行計画を立てよう！英語と旅行をつなげる 受講)

外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語・ポルトガル語圏専攻
ポルトガル語コース1年 瀧澤 智大

僕は、一年生の前期に Gloval News Talk という講座のレベルでいうと上級者向けの講座に挑戦してみました。結論からいうと、この講座を取って正解でした！初めは、いきなり上級レベルについていけるか不安でしたが、ネイティブの先生と他の先輩方がフォローしてくれて、楽しく参加できました。講座のおすすめポイントは、上級者コースのため、英語が上手な上級生からの刺激を受けることができると共に、高度な多様なジャンルの時事ニュースを扱うので、英語を通して、幅広い分野の教養まで身に付けることができます！
(中級・上級ディスカッション:グローバルニューストーク 受講)

外国語学部中国学科

翻訳・通訳コース4年 山浦 綾華

基礎から英語を学び直して“話せる英語”を身につけてたい！と思い、この講座を申し込みました。自身の英語力にコンプレックスを抱いていたのですが、先生が私の現状持っている力に合わせ授業を進めてくださったおかげで、自身のレベルを気にすることなく、少しずつ力をつけることができました。ゲームやオリジナルのアクティビティなど、アウトプット中心の授業だったので、楽しみながら力を伸ばすことができました。小学生の頃に英語を習ったような、純粋な気持ちで英語を学べたのは本当に久しぶりで、受講して良かったなと心から感じています。根本に立ち返って学び直したい方、英語での日常会話に興味がある方、様々な層の方にこの講座をおすすめしたいです。

(初心者向けフリートーク:ボキャブラリーと簡単なディスカッション受講)

外国語学部ヨーロッパ学科フランス語圏専攻

2年 清水 菜生

この度、災害プロジェクトに参加させて頂いたことに感謝申し上げます。災害という主題に関して、まず最初に、能登半島地震の震災に際し、心よりお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い復興をお祈り致します。この講座では、先生のご指導の下、学年学部異なる多様な背景を持つ先輩、後輩と一緒に活動することができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。活動を通し、各々が意見や考えを共有することで、新たな視界が開け、自分の考え方への刺激になりました。また、非常に様々な専門分野を持つ先生方のご協力により、学際的な視点から災害について考える機会となりました。物事を多面的に見るということを再認識する契機となりました。稚拙ではありましたが、第一回の対談において司会を務めさせていただき、課題を認識するとともに貴重な経験を積むことができました。本格的な照明器具や編集ソフトを用いて、録画した映像を元に一つの短い映像を作成することは、複数名で協調しなければ達成できないことだと強く感じました。僭越ではありますが、今回の講座の成果が、あらゆる災害やそれによる被害に対して少しでも寄与することを願っております。

(全大学的メディア制作プロジェクト:「災害を考える」:学生メディア制作チーム受講)

2.2.6 iContact(あいこんたくと)

2023年度のiContactは、iCoToBaのハック教員と教養教育センター外国人教員4名が担当する英語とブラジル政府派遣講師によるポルトガル語、留学生のSA(スチューデント・アシスタント)が担当する言語(英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語)で実施した。担当した学生は前期23名(英語1、フランス語5、ドイツ語1、スペイン語2、ポルトガル語2、中国語7、韓国語5)、後期23名(英語2、フランス語3、ドイツ語2、スペイン語2、ポルトガル語3、中国語9、韓国語2)であった。教員とのiContactは、予約時に対面またはオンラインを選択可能とした。オンラインiContactを利用する学生も一定数はおり、オンラインの利点を生かして活用していきたい。2023年度のiContact実施実績を表6、表7に示す。

[表 6 2023 年度前期 iContact 実施実績]

言語	担当	実施回数	参加者数(のべ数)	合計時間
英語	iCoToBa 専任教員 教養英語専任教員	158	427	39.5
ポルトガル語	ブラジル政府派遣講師	25	35	6.25
英語	留学生	16	61	8
フランス語	留学生	74	153	37
ドイツ語	留学生	19	34	9.5
スペイン語	留学生	37	122	18.5
ポルトガル語	留学生	39	98	19.5
中国語	留学生	107	323	53.5
韓国語	留学生	41	201	20.5
合計		516 回	1,454 人	212.25 時間

[表 7 2023 年度後期 iContact 実施実績]

言語	担当	実施回数	参加者数(のべ数)	合計時間
英語	iCoToBa 専任教員 教養英語専任教員	140	368	35
ポルトガル語	ブラジル政府派遣講師	24	30	6
英語	留学生	18	108	18
フランス語	留学生	56	106	28
ドイツ語	留学生	9	9	16
スペイン語	留学生	39	148	19.5
ポルトガル語	留学生	69	182	29
中国語	留学生	88	192	44
韓国語	留学生	34	34	17
合計		477 回	1,177 人	205.5 時間

Teacher's Voice

Martin BAILDON (Liberal Education Center)



From the instructor's viewpoint, iContact has given me the opportunity to really understand and communicate with students at Aichi Prefectural University. Although I talk to many students in the classroom, iContact is somewhat different as it encourages both the instructor and student to share experiences, knowledge and opinions individually and in private. I have become more aware of the

variety of different backgrounds of students and different ways of looking at the world through iContact, and this has helped me learn more and hopefully students too. Conversations often centre around what students consider important at that time, including university life, interests and hobbies, short-term and long-term plans and goals, and questions about academic courses and language proficiency tests. The staff try to help find times which are convenient for students, making the programme accessible and welcoming. I believe its popularity will continue in 2024 and beyond.

Ben FILER (Liberal Education Center)

As I come to the end of my second year at APU, I realise how much I enjoy iContact in iCotoba. In our regular classes we do not have the same opportunities to talk to the students in such depth as we do during the iContact sessions. Some of the students who join iContact seem to really open up and find the one-to-one speaking situation to be a chance to build their confidence that they can then take on into their regular English classes and, in some cases, their part time jobs. I have been fortunate to be able to follow some students' journeys through important stages in their lives thanks to iContact. This includes supporting students with IELTS practice to aid them studying abroad. In other cases, students have asked for practice in job interviews and then kept me informed of their progress which has been gratifying. I am already looking forward to meeting some new students in 2024.



I have been fortunate to be able to follow some students' journeys through important stages in their lives thanks to iContact. This includes supporting students with IELTS practice to aid them studying abroad. In other cases, students have asked for practice in job interviews and then kept me informed of their progress which has been gratifying. I am already looking forward to meeting some new students in 2024.

Craig JONES (Liberal Education Center)



I have had a productive and interesting time in iContact this year. The atmosphere in the iCotoba area was wonderful and it was nice to have the additional room for students to use for study. It remains a fantastic place for students to gather and meet people from all over the world. I had face to face appointments with students from a variety of different departments. We also made iContact available online, for students that were uncomfortable or unable to attend face to face. I think this is a great idea and I hope we continue to provide this opportunity moving forward. iContact allows me to get to know students better than in my regular classes. It also allows me to meet students from other departments such as Eibe and kokusai. I am looking forward to another exciting year of iContact in 2024.

Christopher WYLE (Liberal Education Center)

The 2023 iCoToBa sessions were memorable for me and I enjoyed meeting many repeat students



who seem to get something valuable out of our conversations (I certainly do!) As with last year, many of my students who began coming to iCoToBa years ago are graduating and it's a little sad to say goodbye to the regular visitors which I got to know over the years. As in the past, I was glad to speak with many students from a variety of backgrounds and majors. It is one of the many benefits of iCoToBa that you can meet students' that you would not normally teach in your regular courses and likewise students can come to know teachers, myself and others, from a wide variety of backgrounds with their own histories, expertise, interests and even English dialects. I always enjoy speaking to a wide range of students and feel I learn from them and hopefully the reverse is true as well! It was an enjoyable and productive year!

Melo WADISON (Liberal Education Center)

Este foi o meu segundo ano lecionando português na Universidade da Província de Aichi. Durante este ano letivo, consegui perceber que está aumentando o número de alunos interessados em português na universidade, e isso me deixou muito feliz. Não só o número de alunos de português tem aumentado como também o nível do alunos. O iContact me proporcionou uma ótima oportunidade de conhecer melhor os alunos, conversando com eles em português,



e de ensiná-los mais sobre o Brasil. Espero que no próximo ano eu possa conhecer e conversar com mais alunos. Aguardarei ansioso pelas nossas conversas no iCoToBa.

愛知県立大学でポルトガル語を教えて2年になりました。今年度は、特に大学でポルトガル語に興味を持つ学生が増えていることを実感して、とても嬉しく思いました。ポルトガル語を学ぶ学生の数が増えただけでなく、学生のレベルも上がったと思います。iContactは、ポルトガル語で話したり、ブラジルについて教えたりすることで、学生たちともっと仲良くなるいい機会です。来年度は、より多くの学生と会って、話すことができることを願っています。iCoToBaでまた会話をするのを楽しみにしています。

Student's Voice

アンドリュー レア (トゥールーズ大学ジャン・ジョレス校 交換留学生)

Lorsque j'ai commencé mon travail à iContact, je ne connaissais pas encore beaucoup d'étudiants japonais qui apprennent le français. Mais petit à petit, des gens sont venus parler avec moi. J'étais très heureuse de rencontrer des japonais qui sont intéressés par la langue et la culture de mon pays. Les discussions sont toujours très variées et très amusantes. Même si les étudiants ne sont pas dans la même année, nous réussissons toujours à parler en français et à se comprendre. À mon

iContact, je fais en sorte que nous parlions tous librement et que nous n'ayons pas peur de faire des erreurs. Grâce à ce travail de iContact, j'ai pu me faire de très bon amis.

私が iContact の仕事を始めたとき、私はフランス語を勉強している日本人の学生がまだあまり分かりませんでした。しかし、少しずつ人々が私に話しかけるようになりました。私の国の言語や文化に興味を持っている日本人が会いに来てくれてとても嬉しかったです。話題がいつも非常に多様で、とても面白いです。同じ学年でなくても、私たちは常にフランス語で会話し、お互いを理解することができます。私の iContact では、全員が間違いを恐れずに自由に話せるようにしています。iContact の仕事のおかげで、私はとても良い友達を作ることができました。



パク ソヨン (韓国外国語大学 交換留学生)



처음에는 그저 재밌어보여서 신청했으나, 아이콘택트는 생각보다 책임감이 필요한 프로그램이었습니다. 매주 주제를 정해서 자료를 준비해야 하는 것이 쉬운 일이 아니었습니다. 하지만, 열심히 준비한 내용을 모두가 관심을 가지고 들어주었기 때문에 매주 더 힘내서 자료를 찾을 수 있었습니다. 또한, 아이콘택트에서 다양한 친구들을 사귄 수 있어서 재밌었습니다. 매주 참가하는 친구들과는 친해질 수 있었습니다. 아이콘택트를 하면서 가장 인상 깊었던 건, 참가했던 친구들이 ‘소영의 수업, 대박!’, ‘꿀잼!’ 등 알려주었던 한국어 표현을 사용하여, 수업이 재밌었다고 말해주었던 때입니다. 무척 기뻐서, 더 힘낼 수 있었습니다. 아이콘택트를 할까 말까 고민하는 유학생들이 있다면, 저는 추천하고 싶습니다. 수업을 준비하는 과정이 힘들긴 하지만, 그만큼 보람 있는 시간이 될 것이라고 생각합니다.

最初はただ面白そうだったので申し込みましたが、ICONTACTは思ったより責任感が必要なプログラムでした。毎週テーマを決めて、資料を準備しなければならないのはけっこう面倒なことでした。しかし、私が熱心に準備した授業を、皆が興味を持って聞いてくれたので、毎週頑張って資料を準備することができました。そして、ICONTACTでいろんな友達ができ楽しかったです。毎週参加してた友達とは仲良くなりました。ICONTACTをしながら一番印象深かったのは、私の授業に参加した友達が「ソヨンの授業、テバク!」、「クルジェム!」など教えてあげた韓国語の表現を使って、私の授業が面白かったと言ってくれたことです。とても嬉しくて、その後、もっと頑張りました。もし ICONTACT をしようかどうか悩んでいる留學生がいたら、したほうが良いと言いたいです。授業を準備する過程が大変ではありますが、その分やりがいのあることだと思います。

上野 航祐(愛知県立芸術大学大学院美術博士前期美術専攻デザイン)



私は芸大の修士課程デザイン専攻の学生です。春田研究室でフォントをデザインしています。2年間に渡って後期のみ、多いときは週4日3~5コマ iCotoba と iContact を受講していました。まずは私が言語学習を始めたきっかけについて書きます。私は最初、iCotoba に来たときは全くと言っていいほど外国語を話した経験がありませんでした。しかし、私にはある海外のデザインエージェンシーで働くという目標がありました。私はこの会社に行くことだけを目指して努力しました。そして2年次、4月から6月にかけて、私は実際にこの会社へインターンに行くことができました。現地での取り組みもあって修了後はこの会社で働く予定です。

私はこの2年間、本当に修士研究と言語学習だけを黙々とやってきました。私にとって iCotoba は、そのモチベーションをいつもキープしてくれる場所でした。それは他の学生にとっても同じだと思います。ただ私が今まで挫折せずに、コツコツやることができたのは、やはり信頼できる人に多く巡り会えたからだだと思います。そうして、自分も含めたみんなのためにできることを日々やってきた結果が今に繋がっていることは確かです。

山本 一馬(外国語学部国際関係学科4年)

私は学内で英語を気軽に話せる場として、1年生の後期から iCoToBa を利用し始め、毎学期1つ、多い時は2つ以上の授業に参加し、大体週1のペースで iContact を利用していました。私の思う iCoToBa の良い点は、「考えていることを英語で伝える」ことを気楽に練習できる点です。私は趣味の一つにアニメ鑑賞があるのですが、その話題を iContact で Brett 先生と共有することがとても楽しく、やり取りを通じて自身の英語が上達している実感がありました。授業では、特に Brett 先生が主催する映画/アニメを観るもしくはマンガを読んで作品についてディスカッションをする授業が印象に残っています。作品ごとのジャンルやストーリー展開の特徴などを考察することで、その作品の面白さに隠された工夫や有名な作品の共通点を知ることができ、新たな視点が得られたと共に英語での表現力も向上しました。また、iCoToBa で学部・学科・学年の枠を超えた友人、そして様々な国からの留学生の友人ができたことも素晴らしい点の一つです。みなさんもぜひ iCoToBa を訪れて、会話を楽しんでみてください。



2.2.7 海外大学の学生とのオンライン交流

2021 年度から始まったグアダラハラ大学(メキシコ)との交流会は、オンライン日本語会話ボランティアとして引き続き実施している。秋学期・冬学期にあわせて12名が参加した。

3 留学報告会

iCoToBa での留学報告会は、週に一度、昼休みに定期的に行われている。今年度は毎週月曜日に開催し、協定大学からの帰国者には報告を義務付けた。この報告会では、留学体験者が留学先での学修や異文化体験などの紹介を通して、自身の学びをふりかえること、そして、これから留学を考える学生と、留学準備や現地情報等を共有することを目的としている。

2023 年度は、前・後期あわせて22回の報告会が開催された。報告者は学生目線で、留学を考える学生が必要とする内容の資料を準備して発表した。毎回、参加者からは具体的な質問が多くあり、有益な情報提供の場となった。

2023 年度に開催した留学報告会の実施実績を表8、表9に示す。

[表8 2023 年度前期 留学報告会実施実績]

月日	留学先	国名	参加者数
5月15日	アント大学	ベルギー	12
5月22日	チュービンゲン大学	ドイツ	8
6月5日	セントラル・ランカシャー大学	イギリス	9
6月12日	メキシコ国立自治大学	メキシコ	6
6月19日	リューネブルク大学	ドイツ	3
6月26日	アント大学	ベルギー	4

7月3日	ア・コルーニャ大学 アリカンテ大学	スペイン	16
7月10日	セビリヤ大学	スペイン	13
7月17日	オッターベイン大学	アメリカ	6
7月24日	清州大学	韓国	5
10回開催 参加者のべ数			82

[表9 2023年度後期 留学報告会実施実績]

月日	留学先	国名	参加者数
10月9日	ニューヨーク州立大学フレドニア校	アメリカ	3
10月16日	ゲント大学	ベルギー	13
10月23日	セントラル・ランカシャー大学	イギリス	10
10月30日	ロレーヌ大学	フランス	8
11月13日	カリフォルニア州立大学チャンネル アイランド校	アメリカ	8
11月20日	トゥールーズ大学ジャン・ジョレス校	フランス	6
11月27日	ブリュッセル自由大学	ベルギー	6
12月4日	ケルン大学	ドイツ	10
12月11日	サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学	スペイン	12
12月18日	リール大学	フランス	7
1月15日	リール大学	フランス	2
1月22日	静宜大学	台湾	6
12回開催 参加者のべ数			91



[6月5日 セントラルランカシャー大学]



[7月10日 セビリヤ大学]



[12月4日 ケルン大学]



[1月22日 静宜大学]

4 グローバルセミナー

iCoToBa グローバルセミナーは、2017年度から始めた取り組みである。本学の教員や外部有識者を招き、国内外のグローバルな文脈における研究や、研究に関連した活動、または、海外生活で得た経験などについて紹介し、議論できる場をつくることを目指したものである。本学のグローバル事業が全学化されたことにもない、学生と教職員が交流できる場として設定された。2023年度はほとんどのセミナーを対面とオンラインのハイブリッドで開催した。オンラインでの配信を併用することによってより多くの学生や教職員が参加することができた。オンラインセミナーを視聴するための Office365Teams の Global / iCoToBa チームの参加登録者数は 355 人になった。2023 年度に開催したグローバルセミナー一覧を表 10 に示す。(以下、講師の敬称略)

「愛県大史プロジェクト」メディア制作チーム成果発表

講師: Brett HACK (iCoToBa 多言語学習センター)

「愛県大史プロジェクト」とは、愛知県立大学の歴史を語る保存資料と記念メディアコンテンツを制作する大学全体のプロジェクトである。全学同窓会の支援のもとで実施され、県政 150 周年関連事業として一部公開されている。

プロジェクトの一つとして、様々な学部の学生で構成されたメディア制作チームは、「愛県大史」の多様な視点を提示する人物にインタビューし、ビデオシリーズを制作した。歴史背景を調査し、ビデオ撮影と編集まで学生たちが運営した。

成果発表会では、プロジェクトの構成を紹介し、ビデオのサンプルを上映してから参加者と質疑応答を行った。いろいろな立場から愛県大の歴史を多角的に語るこのプロジェクトの魅力を発信することができた。



[4月19日グローバルセミナー]

American Environmental Movements and Their Impact

講師: Christopher WYLE (教養教育センター)

In this talk, the presenter will discuss some of the origins of the first environmental movements in America as well as later movements that arose in the 1960s and 70s and their impacts. There will also be time for questions, sharing opinions and discussion during the talk.



[5月31日グローバルセミナー]

南米・ペルーのあれこれ ～フィールドワークを通じて～

講師: 久我 アレキサンデル (教育発達学科)

日本で「ペルー」と言えば、最近ではペルー料理も注目されるようになってきましたが、やはりマチュピチュやナスカの地上絵などが有名でしょうか。

私は10年ほど前から「ペルーの学校体育カリキュラム開発」をテーマにして研究を進めています。現地でのフィールドワークを通じて、文化や人に触れる機会がたくさんありました。今回は、日本から見れば地球のほぼ真裏に位置する国、ペルーについてご紹介させていただきました。



[6月21日グローバルセミナー]

Active Travel

講師: Martin Baildon (教養教育センター)

The need to maintain and promote physical exercise throughout one's lifetime is at the core of healthy ageing in an era when physical inactivity has become the fourth leading risk factor of death. Studies have consistently highlighted the results of regular physical activity, including better physical and mental health, greater all-round life satisfaction, increased longevity of personal independence and less reliance on medical care, particularly in older age. Active travel, primarily walking and cycling for everyday activities, is seen as a vital cog in maintaining and improving regular physical exercise due to the ease it can be included into people's everyday routine. Unlike walking and cycling for exercise or leisure, the goal of active travel is to make destinations, which are part of people's everyday lives, accessible and a preferred alternative to the car. This seminar will highlight the factors which influence walking and cycling and evaluate the current environments both in Japan and overseas.



[6月29日グローバルセミナー]

私の履歴書 海外での経験を踏まえて

講師: 古川 真也 (愛知県公立大学法人理事長)

冒頭で私の勤めたトヨタ自動車と豊田自動織機の歴史と現状を数字も使って説明。売上が 37 兆円、税後利益が 2.5 兆円、連結従業員が 38 万人というトヨタも過去厳しい経営危機を乗り越え成長してきた事、豊田自動織機はトヨタグループの源流企業であり、現在売上の 70% 近くは産業車両、物流部門が占め、繊維機械部門は今は 3% 程度であるも社名にその歴史を今も刻んでいる事等を説明。私の会社人生はこういった両社の発展とともに歩むという幸運にも恵まれ、大変貴重な経験の連続でした。中でも 4 回、計 15 年の海外での生活を通して多くの人に出会い、自ら色々と経験し、学ぶ事が出来たのでその時々エピソードも交えながら皆さんの参考になる話が少しでもできればと話を進めましたがどこまで参考になる話が出来たやら。ただ私の人となりは話を通して伝えられたのではと思っています。ブラッセル、パリ、カナダ、2 度目のブラッセルと話を進めたかったのですが、パリの話の途中で時間切れとなり体を張ってやっていた若い頃の話しか出来ませんでした。もう少し頭も使って仕事をしたカナダと 2 度目のブラッセルの話を又機会あればしたいなと思っています。



[7 月 12 日グローバルセミナー]

コミュニティ通訳講座「ひじょうしょくをたべてみよう！」実践報告

講師: 吉田 理加 (外国語学部ヨーロッパ学科スペイン・ポルトガル語圏専攻
大学院国際文化研究科)

iCoToBa コミュニティ通訳講座の活動として、「ひじょうしょくをたべてみよう」を実施しました。その際に、非常食の食べかた、防災クイズ、ハラル食の見分け方などをやさしい日本語で発表した学生たちが振り返りを報告しました。「やさしい日本語」は「難しい」というのが共通の感想でした。また、留学生だから防災知識がないわけではなく、留学生と日本人学生がともに協力しながら知識や実践スキルを補完しあえることも報告されました。



[7月19日グローバルセミナー]

コメから見るイギリス帝国

講師: 日尾野 裕一 (外国語学部英米学科)

18世紀イギリス帝国にとってコメは帝国の経済的、文化的な接続を表すものであった。奴隷貿易を通じて西アフリカから北米植民地に移入してきたコメは、現地にて奴隷を使役する大規模なプランテーションにて生産され、そのコメは北米やカリブ海の島々の奴隷の食糧として輸出され、また植民地在住白人の食卓にも上っていた。また、イギリスでは「貧者の食べ物」とみなされた北米産のコメは本国で消費されることなく、大陸ヨーロッパへと輸出されていく。この大西洋を跨いだ経済活動はイギリス帝国に大きな富をもたらすことになるが、その背後には奴隷制という歴史の負の面が色濃く存在していた。一方、東方からの文化についてもコメは大きく関わっていく。米食文化に乏しい地域であったイギリスであったが、東インド会社の活動を通じて、18世紀になるとインドの米料理がレストランや書籍を通じてイギリスにも知られるようになる。18世紀後半のイギリス本国においてコメはインド文化香る外国料理の材料であった。一方で奴隷の食料として、一方で異国の珍しい料理の材料として、イギリス帝国の広がりを受けてコメは多様な意味合いを与えられていた食材だったのである。



[10月18日グローバルセミナー]

俳句とパフォーマンスーブラジル・ハイカイのユニークな展開

講師:ホベルソン・デ・ソウザ・ヌネス(ミナスジェライス連邦大学教育学センター)

19世紀末から20世紀初頭にヨーロッパで紹介された日本の俳句は、現在は HAIKU として世界各国で創作されている。ブラジルで俳句は HAICAI もしくは HAIKAI と呼ばれ、とても盛んである。もともとはフランス経由で紹介され、簡潔な三行詩として受容されたのだが、その後アメリカ経由で導入されたイマジズムや禅思想と結びついた俳句観の影響を受け、オリエンタリズム色の濃いものとなった。1980年代になると、日本語の俳句に造詣の深い日系人を中心に、日本の「正当」な季語をもつ俳句をブラジルのハイカイ作者に伝えようというグループがでてきて、現在ではその俳句観は広く浸透している。このように多様なかたちで展開されてきたブラジルのハイカイであるが、本セミナーでは、俳句とパフォーマンスの関係に焦点を当てた実践的・理論的な研究を行うヌネス氏が、俳句から着想を得て演出したパフォーマンス・アート「ハイカイ:川底を泳ぐのは雲だけだ」を紹介する。



[10月25日グローバルセミナー]

「災害を考える」対談イベントシリーズ

【第一回】災害対策の知識共有・動員の仕組み:日本の地域での経験・貢献

講師: Brett HACK (iCoToBa 多言語学習センター)

登壇者: 清水宣明 (愛知県立大学看護学部教授)

水津 功 (愛知県立芸術大学美術学部教授)

野田博也 (愛知県立大学教育福祉学部社会福祉学科教授)

テーマ: 愛知県での活動を中心に、科学及び社会行政、デザインの側面に焦点をあて、「災害に強い社会」の形を幅広く議論する。



[11月22日グローバルセミナー]

Tolosa, vila occitana e Universitat Tolosa

トゥールーズ大学とオクシタンの中心都市トゥールーズ

講師:ジャン＝フランソワ・クロー (トゥールーズ第二(ジョン・ジョレス)大学)

2023年度グローバル学術交流事業として、フランス、トゥールーズ第二大学からジャン＝フランソワ・クロー教授を招聘し、フランスのマイノリティ言語オクシタン語復興の状況について講演いただいた。トゥールーズ第二大学は本学と協定校を結び、毎年複数の学生の送り出し・受け入れを実施していることもあり、クロー先生にトゥールーズの町についての講演をしていただいた。講演はフランス語とオクシタン語、そして豊富な映像を交え、南フランス、オクシタニー州の中心都市であり、オクシタン語復興活動も盛んな学園都市であり、かつ航空産業の中心でもあるトゥールーズについて紹介された。特産品であるスマレの花の香水も回され、セミナー開催会場がとてもいい香りに包まれた。



[12月6日グローバルセミナー]

玄奘が訪れたタキシラとはどこか

講師:内記 理 (日本文化学部歴史文化学科)

中国唐の仏教僧玄奘は、7世紀の前葉にインドを旅した際にタキシラ国を訪れた。タキシラの位置は20世紀前葉にイギリス人考古学者マーシャル氏によって確定されたが、実際のところ、その比定には矛盾が多い。玄奘は『大唐西域記』においてタキシラの都城と仏塔について、それぞれの位置関係とともに説明をしているが、それらと氏によって比定された遺跡の位置関係には齟齬があるのである。このような矛盾を踏まえ、発表者は玄奘の訪れたタキシラについて、氏とは異なる見解をもつに至った。その見解の妥当性を確認することを目的に、2023年8月にパキスタンで遺跡踏査をおこなった。玄奘の時代のタキシラの中心地は、ラワルピンディ市の周辺にあった可能性が高い。



[12月20日グローバルセミナー]

「災害を考える」対談イベントシリーズ

【第二回】文化は災害をどうとらえるべきか: 芸術と大衆メディアの傾向と役割

講師: Brett HACK (iCoToBa 多言語学習センター)

登壇者: 梶原 克教 (愛知県立大学外国語学部英米学科教授)
宮崎真素美 (愛知県立大学日本文化学部国語国文学科教授)
奥田 隆史 (愛知県立大学情報科学部情報科学科教授)



テーマ: 文化・芸術における「災害」の捉え方
歴史と現代社会の例を取り上げながら、災害がどのように表象され、その感情が人の表現力で新たな創造と行動様式を生み出せるか、幅広く議論する。



[12月27日グローバルセミナー]

Talking Baseball in Japanese and English! —野球の日英語表現

講師: 桑村 昭 (愛知県立大学国際戦略室)

With the excitement of 2023 WBC and Japan Series still fresh in our minds, the presenter, a long-time baseball fan and international educator, will talk about the world of baseball and its common Japanese and English expressions bilingually. In the session, while giving some background information about baseball in terms of its history, popularity and current situation, the presenter will explore with the audience some of the words, acronyms and other expressions in two languages typically used for batting, pitching, fielding, managing, statistics and more in the game of baseball. Students, faculty, and staff, regardless of their prior knowledge of baseball, are all welcome to participate in this seminar!



[1月10日グローバルセミナー]

なぜ、韓国では子どもを産まなくなったのか？—韓国の少子化の現状と課題—

講師: 金 碩浩 (教育福祉学部社会福祉学科)

人口クライシス、国家消滅、マイナス成長。これらはマスコミが韓国の少子化を取り上げる際に使っている刺激的な言葉である。2022年の合計特殊出生率が0.78を記録したからだ。出生率の減少はさらに進んでおり、2023年の出生率は0.7を切るか否かが注目の的となっている。今回のグローバルセミナーでは、なぜ韓国では子どもを産まなくなったのかをテーマに、韓国における少子化の現状を概観した上、その背景要因とされている社会問題について考察を行う。



[1月17日グローバルセミナー]

Lo bilingüisme francès-occitan (フランス語／オクシタン語のバイリンガリズム教育)

講師: ピエール エスクデ (ボルドー大学 文化教育社会学部)

ボルドー大学のピエール・エスクデ教授は、複言語主義とバイリンガル教育がご専門だが、オクシタン語文学やオクシタン語教育と教員養成課程にも関わっていることもあり、京都大学への短期招聘の機会に本学を訪問し、セミナーを開催していただくことができた。講演はほとんどがオクシタン語で行われた。講演では、第一にフランスにおける、フランス革命以来現在も強固に残る単一言語主義イデオロギーとその弊害、第二に戦後の国内の言語多様性と超国

家的言語多様性への認識が、単一言語主義と軋轢を生みつつ定着していった過程、そして第三に、地域言語とフランス語のバイリンガル教育の実践の蓄積の中で、どのような成果が出されているか、その際の注意すべき論点などが考察された。イマージョン教育は魔法の杖ではなく教師の注意すべき点は多いこと、複言語状況によって言語記号の「シニフィアン」と「シニフィエ」、どちらの多様性も認識させる重要性などが議論された。



[2月5日グローバルセミナー]

[表 10 2023 年度開催グローバルセミナー一覧]

月日	講師	タイトル	参加者数
4/19	Brett Hack (iCoToBa 多言語学習センター)	「愛県大史プロジェクト」メディア制作チーム成果発表	39 (16)
5/31	Christopher Wyle (教養教育センター)	American Environmental Movements and Their Impact	11
6/21	久我 アレキサンデル (教育福祉学部教育発達学科)	南米・ペルーのあれこれ ～フィールドワークを通じて～	30 (15)
6/29	Martin Baidon (教養教育センター)	Active Travel	34 (4)
7/12	古川 真也 (愛知県公立大学法人理事長)	私の履歴書 —海外での経験を踏まえて	90 (68)
7/19	吉田 理加 (外国語学部ヨーロッパ学科 スペイン語圏専攻)	コミュニティ通訳講座「ひじょうしよくをたべてみよう！」実践報告	33 (16)
10/18	日尾野 裕一 (外国語学部英米学科)	コメから見るイギリス帝国	41 (28)

10/25	Roberson de Sousa Nunes (ミナスジェライス連邦大学)	俳句とパフォーマンス —ブラジル・ハイカイのユニークな展開	25 (12)
11/22	Brett Hack (iCoToBa 多言語学習センター)	「災害を考える」対談イベント1 登壇者:清水宣明(看護学部)、水津功 (芸大美術学部)、野田博也(教育福祉 学科)	(25)
12/6	Jean-François COUROUAU (トゥールーズ第二(ジョン・ジョレス) 大学)	Tolosa, vila occitana e Universitat Tolosa (トゥールーズ大学とオクシタンを中心都 市トゥールーズ)	39 (19)
12/20	内記 理 (日本文化学部歴史文化学科)	玄奘が訪れたタキシラとはどこか	39 (19)
12/27	Brett Hack (iCoToBa 多言語学習センター)	「災害を考える」対談イベント2 登壇者:梶原克教(英米学科)、宮崎真 素美(国語国文学科)、奥田隆史(情報 学科)	(23)
1/10	桑村 昭 (国際戦略室)	Talking Baseball in Japanese and English! —野球の日英語表現	11
1/17	金 碩浩 (社会福祉学科)	なぜ、韓国では子どもを産まなくなった のか?—韓国の少子化の現状と課題—	32 (22)
2/5	Pierre ESCUDÉ (ボルドー大学 文化教育社会学部)	Lo bilingüisme francés-occitan (フランス語/オクシタン語のバイリンガリ ズム教育)	83 (50)

()内はオンライン参加者数

5 iCoToBa のイベント

iCoToBa では、異文化理解および異文化交流の促進を目的に、さまざまなイベントを開催している。2023 年度に実施したイベント一覧を以下表 11 に記す。

[表 11 2023 年度 iCoToBa 開催イベント一覧]

実施日	時間	イベント名	参加者数
4月14日	14:30~16:30	Pancake Event	53
5月10日	14:00~16:00	Welcome Party	70
5月17日	12:50~14:20	マリネラを踊ろう!	51

実施日	時間	イベント名	参加者数
6月22日	12:00～13:30	Festa Junina	32
7月12日	14:00～16:30	Farewell Party	23
7月25日	10:30～12:00	やさしい日本語	11
11月4日	10:50～12:30	第13回レシテーション大会	36
11月8日	13:00～15:00	Welcome Party	43
11月15日	12:10～12:40	グローバル実践教育プログラム成果発表会	22
12月27日	13:00～15:00	Christmas Party	15
1月17日	14:00～16:00	Farewell Party	11
1月18日	12:50～14:20	Special Seminar	20



[2023年4月14日 Pancake Event]



[2023年5月17日マリネラを踊ろう!]



[2023年7月12日 Farewell Party]



[2023年6月22日 Festa Junina]



[2023年11月4日第13回レシテーション大会]



[2023年12月27日 Christmas Party]

2023年度 第7回 グローバルセミナー @iCoToBa

グローバル実践教育推進室

日本では生食として食べられている玉米、一方で、多くの方はトウモロコシの芯部分には食べられないが、米イノチの栽培が得意な南米には重要な作物。糖質、タンパク質、油質は、米イノチの栽培が得意な南米では重要な作物。糖質、タンパク質、油質は、米イノチの栽培が得意な南米では重要な作物。

10/18 (水) 12:10~12:50

スピーカー
日尾野 裕一
外国語学部英米学科

場所:
iCoToBa Activity Space
*オンラインでも視聴いただけます！

スピーカーの開催方法*
Zoom (Web) / Zoom Meeting ID: 987 654 3210 (パスワードなし) / 参加者氏名を登録する場合はZoomのリンク先にお知らせください。

Zoom ID: 987 654 3210 (パスワードなし) / 参加者氏名を登録する場合はZoomのリンク先にお知らせください。

2023年度 第6回 グローバルセミナー @iCoToBa

グローバル実践教育推進室

海外での経験を踏まえて

7/12 (水) 12:10 - 13:00

スピーカー
理事長 古川 真也

場所
iCoToBa Activity Space
*オンラインでも視聴いただけます！

スピーカーの開催方法*
Zoom (Web) / Zoom Meeting ID: 987 654 3210 (パスワードなし) / 参加者氏名を登録する場合はZoomのリンク先にお知らせください。

Zoom ID: 987 654 3210 (パスワードなし) / 参加者氏名を登録する場合はZoomのリンク先にお知らせください。

2023年度 第8回 グローバルセミナー @iCoToBa

グローバル実践教育推進室

俳句とパオ・オーマンズ
ブラジル・ハイカイのエキゾチックな展開

日本では生食として食べられている玉米、一方で、多くの方はトウモロコシの芯部分には食べられないが、米イノチの栽培が得意な南米には重要な作物。糖質、タンパク質、油質は、米イノチの栽培が得意な南米では重要な作物。

10/25 (水) 12:10~13:10

スピーカー
ホベルソン・デ・ソウザ・スネス 氏
キオシエカイ国際大学教育センター
運営副長、スエズ湾エジプト国際大学
副校長兼センター

場所:
異文化交流スペース(仮称)
*オンラインでも視聴いただけます！

スピーカーの開催方法*
Zoom (Web) / Zoom Meeting ID: 987 654 3210 (パスワードなし) / 参加者氏名を登録する場合はZoomのリンク先にお知らせください。

Zoom ID: 987 654 3210 (パスワードなし) / 参加者氏名を登録する場合はZoomのリンク先にお知らせください。

2023年度 第6回 グローバルセミナー @iCoToBa

グローバル実践教育推進室

「ひじょうしよくをたべてみよう！」実践報告

7/19日 水 12:10 ~ 12:50

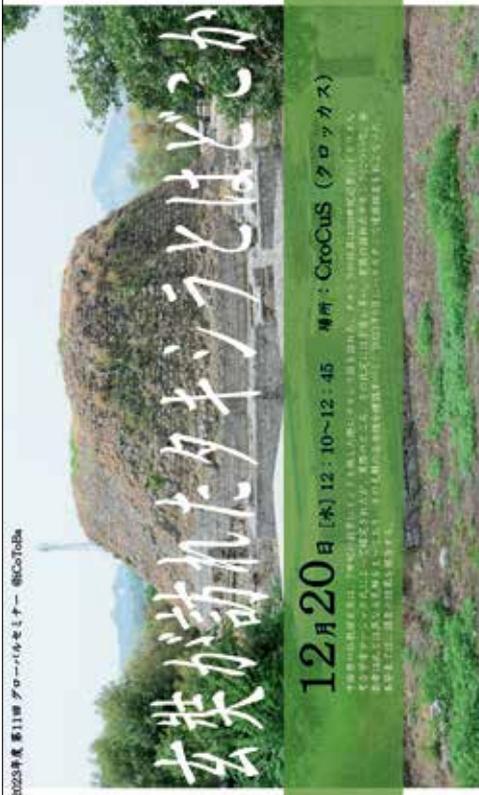
場所 iCoToBa Activity Space

スピーカー
コミュニティ通訳講座(担当者:吉田理加氏)外国語学部
グローバル学専攻/グローバル国際研究/国際言語文化研究科/国際言語文化研究科/国際言語文化研究科
化研実務)受講生

スピーカーの開催方法*
Zoom (Web) / Zoom Meeting ID: 987 654 3210 (パスワードなし) / 参加者氏名を登録する場合はZoomのリンク先にお知らせください。

Zoom ID: 987 654 3210 (パスワードなし) / 参加者氏名を登録する場合はZoomのリンク先にお知らせください。

2025年度 第11回 グローバルセミナー @CroToLoRa



女英が訪れたタキシングとはどこか

12月20日 [水] 12:10~12:45 場所: CroCuS (クロッカス)

スピーカー 内記 理 日本文化学部

※セミナーの開催場所は、CroToLoRaのWebサイトに掲載いたします。また、Zoomのリンク先もWebサイトに掲載いたします。

2025年度 第10回 グローバルセミナー @CroToLoRa

「災害を考える」対談イベントシリーズ

第一回：災害対策の知識共有・動員の仕組み：日本の地域での経験・貢献
11月22日 [水] 12:15~13:30 (最大延長)

オンライン (Zoom) 開催

地震や津波などに加え、気候変動による異常気象、インフラの脆弱性など、災害が頻発的に発生している現状をどうやって生き抜くのか、CroToLoRaのメンバーからは、行政と文化を架かせる対談イベントとして、過去の経験から学びの機会を捉えています。対談イベントでは、行政と文化を架かせる対談イベントとして、過去の経験から学びの機会を捉えています。海外にも発信される予定です。CroToLoRaのメンバーからは、行政と文化を架かせる対談イベントとして、過去の経験から学びの機会を捉えています。

※セミナーの開催場所は、CroToLoRaのWebサイトに掲載いたします。また、Zoomのリンク先もWebサイトに掲載いたします。

2025年度 第12回 グローバルセミナー @CroToLoRa

「災害を考える」対談イベントシリーズ

第二回：文化は災害をどうとらえるべきか：芸術と大衆メディアの傾向と役割
12月27日 [水] 12:15~13:30 (最大延長)

オンライン (Zoom) 開催

地震や津波などに加え、気候変動による異常気象、インフラの脆弱性など、災害が頻発的に発生している現状をどうやって生き抜くのか、CroToLoRaのメンバーからは、行政と文化を架かせる対談イベントとして、過去の経験から学びの機会を捉えています。海外にも発信される予定です。CroToLoRaのメンバーからは、行政と文化を架かせる対談イベントとして、過去の経験から学びの機会を捉えています。

※セミナーの開催場所は、CroToLoRaのWebサイトに掲載いたします。また、Zoomのリンク先もWebサイトに掲載いたします。

2025年度 第12回 グローバルセミナー @CroToLoRa

12/6 [Wed] 12:10~12:50

場所: CroCuS (クロッカス)

Speaker ジャン＝フランソワ・クロール氏 (Jean-François GOURIAU)
トールーズ第二(ジャン・ジュリス)大学 (Université Toulouse-Jean Jaurès)

Tolosa, vila occitana e Universitat Tolosa
(トールーズ大学とオクシタンの中心都市トールーズ)

※セミナーの開催場所は、CroToLoRaのWebサイトに掲載いたします。また、Zoomのリンク先もWebサイトに掲載いたします。

フランス南西部のトールーズは、スペイン語圏とフランス語圏の大都市であると同時に、両方の文化圏の文化の中心地でもあります。トールーズ第二(ジャン・ジュリス)大学は、トールーズとトールーズ大学の歴史、トールーズ大学が関係している。セミナーはオクシタンとフランス語圏の両方で行われます。翻訳済み。

2023年度 第15回 グローバルセミナー #GoToBa

至に南フランスで話されているオクシタン語は、フランスの東部にわたる唯一の言語で、アイザック・アシモフによって知られ、特に教育現場において、「フランス語とオクシタン語のバイリンガル」は習得されてきた。しかし、高度経済成長に伴い、フランス語で教育されるようになっていく。本セミナーでは「バイリンガル教育」の現状とその発展の状況について紹介する。

2024 2.5 12:10-12:50

Lo bilingüisme francès-occitan
(フランス語/オクシタン語のバイリンガル教育)

Speaker
Pierre ESCUDÉ
ポルドー大学 文化教育担当 教授

原書言語 フランス語またはオクシタン語
(日本語の通訳あり)

場所 : CroGuS (クロッカス)
エボランスで仏語圏の文化行事を！

★セミナーの開催方法★
ZoomのID: 8600 11000 11000 11000
Join by Meeting ID: 8600 11000 11000 11000
Join by Personal Link Name: Pierre / Escude / 8600110001100011000
詳細までに、セミナーを視聴するに CroGuS のリンクをお知らせします。

グローバル言語教育推進室

2023年度 第13回 グローバルセミナー #GoToBa

Talking Baseball in Japanese and English!
一野球の日本語表現

2023年10月、日本シリーズの開幕から2週間、野球の専門家と母国が異なる英語圏について、その野球ファンで、最も興味がある質問を募集し、その質問を基に、英語で日本語表現を説明する。このイベントは、英語圏の野球ファンが日本語表現を学ぶ機会を提供し、野球の国際的な交流を促進する。このイベントは、英語圏の野球ファンが日本語表現を学ぶ機会を提供し、野球の国際的な交流を促進する。

スピーカー
桑村 昭 Akira Kuwamura
愛知県立大学国際戦略 APJ Office of Global Strategy

2024 1.10 Wed. 12:10-13:15
場所 : CroGuS (クロッカス)

★セミナーの開催方法★
ZoomのID: 8600 11000 11000 11000
Join by Meeting ID: 8600 11000 11000 11000
Join by Personal Link Name: Akira / Kuwamura / 8600110001100011000
詳細までに、セミナーを視聴するに CroGuS のリンクをお知らせします。

グローバル言語教育推進室

2023年度 第14回 グローバルセミナー #GoToBa

なぜ、韓国では子どもを産まなくなったのか
— 韓国の少子化の現状と課題 —

人口クライシス、国家滅亡、マイナス成長。これらはマスコミが韓国の少子化を危惧している理由の背景である。2023年の合計特殊出生率が0.7を記録した韓国は、出生率の減少はさらに進んでおり、2025年の出生率は0.5を予測されている。出生率の減少は、人口の減少につながるだけでなく、少子化がもたらす社会問題として、その背景要因とされている社会問題について考察を行う。

スピーカー
金 碩浩 (きむ そこ)
教育情報学部・社会福祉学科

2024 1.17 水 | 12:10-12:40
場所 : CroGuS (クロッカス)

★セミナーの開催方法★
ZoomのID: 8600 11000 11000 11000
Join by Meeting ID: 8600 11000 11000 11000
Join by Personal Link Name: Sokoh / Kim / 8600110001100011000
詳細までに、セミナーを視聴するに CroGuS のリンクをお知らせします。

グローバル言語教育推進室

ICoToBa Welcome Week 文化体験イベント

3か国のハンケーキ料理食べ比べ放題

アメリカの
フラップジャック

フランスの
クレープ

アイルランドの
ポクステイ

異なる味と口触りのハンケーキと好きなトッピングと
合わせて、思いっばいまで食べましょう！

4月14日(金曜日)14:30~16:30

受付場所:iCoToBaラウンジ

定人:60人

材料費:300円(飲み物付き、事前払い)

申し込み・参加方法

ICoToBa受付またはicotoba@for.aichi-pu.ac.jpへ
氏名を「ハンケーキ参加」としてメールで申し込
んでください。下記のQRコードから申し込みもこ
もできます。

申し込み先:icotoba@for.aichi-pu.ac.jp または:for.aichi-pu.ac.jp

お問い合わせ:icotoba@for.aichi-pu.ac.jp または:for.aichi-pu.ac.jp

申し込み先:icotoba@for.aichi-pu.ac.jp または:for.aichi-pu.ac.jp

ISC企画
留学生と仲良くなろう！

WELCOME PARTY

東大に新しく来た留学生の歓迎会です

【内容】
フリートーク、ゲーム

参加無料
次第子も歓迎！

場所: B101

2023年5月10日 14:00~15:00 B101

←申込はこちら！

事前申込をした方のみ
で参加いただけます。
締切:4月28日

Instagram: @iscmembers
Gmail: iscmembersapu@gmail.com

マリネラを踊ろう！

日時:令和5年5月17日(水)
12:50~14:20

場所:愛知県立大学
長久手キャンパス講堂

講師 | オルベコソ今村ローザ
(クラブ・リベルタ・トルヒーヨ 名古屋支部)

ペルー民謡マリネラの歴史について、スペイン語と日本語で紹介後、実際にマリネラを踊ってもらい、学生にも体験してもらい、スペイン語学習とラテンアメリカ文化史を知る。

予約不要！
皆さんの参加をお待ちしています！

問合せ先:iCoToBa(多言語学習センター)
icotoba@for.aichi-pu.ac.jp

フェスタ・ジュニーナ

@iCoToBa

ブラジルのお菓子を準備しています！
ポルトガル人留学生による
ポルトガル語のミニ授業
フェスタ・ジュニーナ留学報告
参加者どうしの交流

サライズダンスの要領も！？

開催日:6月22日(木)
時間:12:00~13:30
場所:H201、iCoToBa AS
参加費:無料
予約不要・出入り自由

ポルトガル語経験不要！
誰でも気軽に参加できます！

伝説の服装、
チエックのシャツとジーンズ。
できる方はぜひ着て来てください！

「フェスタ・ジュニーナ」はブラジルの伝統的な祭りですが、「ポルトガル・フェスタ・ジュニーナ」として、ブラジルだけでなくポルトガルの文化紹介もします。このイベントで、楽しみながらポルトガル語の習得に励む仲間を求めてください。

Farewell Party

帰国する留学生の送別会です
帰国する留学生にお別れを言いましょう。

【内容】
フリートーク、七タゲームなど
参加無料！
お菓子もあります！
場所:S201
2023年7月12日 (水)14:00-16:30

留学生用 日本人学生用




申し込みは7.10まで

email:ICOTOBA536324@GMAIL.COM
INSTAGRAM:ISCMEMBERS



YOU ARE INVITED TO

CHRISTMAS PARTY

AT 13:00 PM

2023 . 12 . 27

WEDNESDAY
AT ICOTOBA!!

ISC企画

フェアウェルパーティー

留学生のお別れ会です！参加お待ちしております♪

内容： ミニゲーム、フリートークなど
日にち： 1月17日 (水)
時間： 14時～16時
場所： クロッカス
参加費： 無料 (お菓子あり🍪)

参加申し込みはこちらから↓

※参加は申し込みされた方のみ
締切 (1月12日まで)




JANUARY > 18
12:50 - 14:20
AT ICOTOBA

The study of LGBTQ+ labels Across languages and cultures A SOCIO-LINGUISTICAL APPROACH

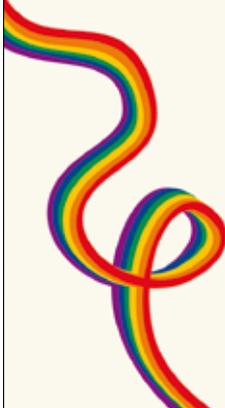
BY IMA DECUPPER, UNDER THE DIRECTION OF PROF. AVRIL HAYE MATSUI

A LOOK AT 7 LANGUAGES
FRENCH, ENGLISH, CHINESE, GERMAN
JAPANESE, SPANISH, PORTUGUESE

AN EXPLORATION OF LABELS AND SLURS
MARIMACHO, ノンケ, DO VALE, 同性戀
HOMOSEXUELL, SAPPHIC, LESBO

HAVE YOU EVER WONDERED
THE LINK BETWEEN GAYS & FRUITCAKES ?
HOW SLURS ARE CREATED AND EVOLVE ?
WHAT ARE NEO-IDENTITIES ?

Q&A WITH THE AUDIENCE
FEEL FREE TO PARTICIPATE AND ASK ANY
QUESTION YOU MAY HAVE ON LGBTQ+



6 外部・地域との連携事業

グローバル実践教育推進室では、地域産業界や自治体等と連携し、地域社会における課題解決を目指した学習機会や地域でのボランティア活動の機会を学生に提供している。

2023年度に実施した内容は下記のとおりである。

6.1 探・県大スタディツアー

2021年から始まった愛知県教育委員会と連携した英語教育推進事業「探・県大スタディツアー」を引き続き実施した。

【目的】

県立高等学校に在籍する生徒が、愛知県立大学において、より高度な学びを体験するとともに、外国人留学生等との交流を通して、国際的な視野の涵養を図る。

【日程】

令和5年9月16日(土)午前の部(10:00～12:00)参加者:15名

令和5年9月16日(土)午後の部(13:00～15:00)参加者:15名

令和5年9月23日(土)午前の部(10:00～12:00)参加者:20名

令和5年9月23日(土)午後の部(13:00～15:00)参加者:21名

【当日のスケジュール】(各日程同一内容)

- ① 趣旨説明・諸注意(10分)
- ② 模擬授業(60分)
- ③ キャンパスツアー(動画上映10分)
- ④ 交流会(30分)

【講師および本学参加学生】

講師	Brett HACK	iCoToBa(多言語学習センター)准教授
講師	Benjamin FILER	教養教育センター准教授
講師	Martin Baidon	教養教育センター准教授
本学学生	吉野 徳馬	外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻4年
	竹内 茜	外国語学部英米学科4年
	高野 頌子	外国語学部ヨーロッパ学科フランス語圏専攻4年
	王 暁飛	日本文化学部歴史文化学科3年
	ラモス ルナ ダビッ	メキシコ グアダラハラ大学(交換留学生)



[2023年9月16日・23日 探・県大スタディツアー]

6.2 多文化共生・住みやすい街・愛知 プロジェクト



留学生と身近な課題解決に向けて意見を交わす千種高校の生徒たち—名古屋市名東区

[2023年7月8日朝日新聞朝刊]

国の事業である WWL(ワールドワイドラーニング)の活動の一つとして、愛知県内の大学に在籍する留学生と千種高校の生徒が、「ともに暮らす街を住みやすくしよう」という目標のもと、身近な課題の解決に向けて話し合うプロジェクトに本学の留学生も参加した。

6.3 愛知・名古屋 2026 アジア競技大会紹介映像制作撮影協力ボランティア

アジアの45の国と地域が参加する第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会が2026年に愛知・名古屋で開催される。それに先立ち、2023年に中国の杭州で開催される大会の閉会式での大会旗の受け渡し式「フラッグハンドオーバーセレモニー」で愛知・名古屋2026大会の紹介と愛知・名古屋の魅力を発信する映像制作に愛知県立芸術大学と本学の学生がボランティアとして協力した。



[2023年10月8日杭州アジア競技大会閉会式愛知・名古屋 PR 映像-YouTube]

7 広報活動

7.1 iCoToBa 公式 Web サイトでの発信

iCoToBa は、2013 年の開室にあわせ公式 Web サイトを開設し、iCoToBa の利用促進を目指して、さまざまな情報発信をしている。iCoToBa の公式 Web サイト「Pickup Information」と「新着情報」を定期的に更新し、イベントや講座情報などを広く発信した。更新日とタイトルを表 12 に示す。2023 年 4 月 1 日から 2024 年 2 月 1 日の発信件数は 44 件である(2024 年 2 月 1 日現在)。

[表12 2023年度iCoToBa公式Webサイトでの情報提供]

更新日	タイトル
2023.4.10	2023 年度前期 iCoToBa 講座の受講申込みについて
2023.4.10	前期の iContact は 4 月 17 日から始まります！【4/17～4/28 の予約を受け付けます】
2023.4.10	Welcome Week を開催します！
2023.4.10	2023 年度 第 1 回グローバルセミナーの開催について
2023.4.20	ゴールデンウィークの閉室日について
2023.4.28	「コミュニティ通訳入門講座」と「ポルトガル語検定試験対策講座」引き続き 受講者募集中
2023.4.28	【5 月 8 日(月)～】留学生 iContact 始まります！
2023.5.12	「マリネラを踊ろう！」参加者募集
2023.5.12	毎週月曜日「留学報告会」を開催します
2023.5.15	iCoToBa 講座「初めてのベトナム語入門講座」受講者を募集します！
2023.5.22	6 月スタート：iCoToBa 講座「中国語」「韓国朝鮮語超入門」「韓国朝鮮語初級」受講者を募集します！
2023.5.22	2023 年度 第 2 回グローバルセミナーの開催について

2023.5.25	5月29日(月)の留学報告会は中止になりました。
2023.6.2	本日台風接近の為13時で閉室します。
2023.6.8	2023年度 第3回グローバルセミナーの開催について
2023.6.22	2023年度 第4回グローバルセミナーの開催について
2023.7.4	2023 夏! iCoToBa 夏季講座「ペルーと日本の教育システムの違いと共通点」・「英語力強化集中講座」の開講について
2023.7.5	2023年度 第5回グローバルセミナーの開催について
2023.7.12	2023年度 第6回グローバルセミナーの開催について
2023.7.26	【申込期間を延長しました!】ペルーと日本の教育システムの違いと共通点:教室における異文化コミュニケーション
2023.8.2	iCoToBa 夏季休暇閉室のお知らせ
2023.9.26	2023年度後期 iCoToBa 講座の開講について
2023.9.26	後期の iContact は10月6日(金)から始まります!
2023.9.28	2023 後期「災害を考える」ビデオプロジェクト参加者募集!
2023.9.29	毎週月曜日 iCoToBa で留学報告会を開催します!
2023.10.5	10月11日 2023 後期「災害を考える」ビデオプロジェクト説明会を開催します。
2023.10.5	【グアダラハラ大学】日本語会話ボランティア募集について
2023.10.20	2023年度 第8回グローバルセミナーの開催について
2023.10.20	【10/23(月)から】留学生 iContact (英語・フランス語・ドイツ語・中国語・スペイン語・ポルトガル語・韓国語)始まります!
2023.11.8	【日本で安全に生活するために】やさしい日本語+6言語(英・西・葡・中・韓・仏)への通訳付き
2023.11.10	iCoToBa TOEIC クリニック(単発講座)の受講者募集について
2023.11.16	2023年度 第9回グローバルセミナーの開催について
2023.11.18	11月18日(土)は閉室します。
2023.11.29	2023年度 第10回グローバルセミナーの開催について
2023.12.11	2023年度 第11回グローバルセミナーの開催について
2023.12.18	閉室のお知らせ
2023.12.22	2023年度 第12回グローバルセミナーの開催について
2024.1.4	2023年度 第13回グローバルセミナーの開催について
2024.1.5	1月6日(土)は閉室します
2024.1.11	2023年度 第14回グローバルセミナーの開催について
2024.1.11	グアダラハラ大学日本語会話ボランティアの募集について
2024.1.11	iCoToBa 春季講座「英語力強化集中講座」受講者募集!
2024.1.24	2023年度 第15回グローバルセミナーの開催について
2024.1.29	春季休暇 iCoToBa 閉室のお知らせ

7.2 SNS での発信(Facebook・Instagram)

2017年4月に iCoToBa の Facebook「愛知県立大学 icotoba(あいことば)」を開設した。週に1回以上の更新を目標に、学生が読みやすいカジュアルな文章や写真を多くアップしている。また2019年度6月からは、Facebookと連動させて Instagram も開始し、認知度を高めるポスターの掲示や、ページへのアクションキャンペーンを行った。2024年2月1日現在で Facebook のフォロワー数は409人、2023年4月1日から2024年2月1日の発信件数は6件である。また、Instagram のフォロワー数は342人、2023年4月1日から2024年2月1日の発信件数は7件である。Facebook および Instagram の記事の公開日および内容を表13と表14に示す(2024年2月1日現在)。

[表13 2023年度 Facebookによる発信状況]

公開日	投稿内容
2023.4.10	iCoToBa Welcome Week 広報
2023.4.13	iCoToBa Welcome Week 広報
2023.4.26	iCoToBa Open Screen 広報
2023.5.16	マリネラを踊ろう！広報
2023.9.27	iContact 広報
2024.1.17	開館35周年記念「ガウディとサグラダ・ファミリア展」広報

[表14 2023年度 Instagramによる発信状況]

公開日	投稿内容
2023.4.10	iCoToBa Welcome Week 広報
2023.4.13	iCoToBa Welcome Week 広報
2023.4.26	iCoToBa Open Screen 広報
2023.5.12	留学体験発表会広報
2023.5.16	マリネラを踊ろう！広報
2023.9.27	iContact 広報
2024.1.17	開館35周年記念「ガウディとサグラダ・ファミリア展」広報

8 iCoToBa 学部・学科別利用者一覧

(2023年4月～2024年1月)

2023年4月から2024年1月までのiCoToBa利用者一覧を表15、表16に示す。

[表15 iCoToBa 利用状況(外国語学部生)]

入学年度	外国語学部						
	英米	フランス	スペイン	ドイツ	中国	国際関係	計
2023	141	210	236	96	261	268	1,212
2022	312	145	146	53	11	99	786
2021	106	4	59	56	85	97	407
2020	83	10	55	0	6	552	706
2019 以前	1	3	7	36	0	4	51
計	643	372	503	241	363	1,020	3,142

(人数はのべ数)

[表16 iCoToBa 利用状況(外国語学部以外の学生)]

入学年度	日本文化学部		教育福祉学部		看護学部	情報科学部	大学院	※ 交換留学生	芸大	計
	国語 国文	歴史 文化	教育 発達	社会 福祉						
2023	22	44	21	49	6	14	23	86	0	265
2022	9	8	28	0	0	0	82	138	21	286
2021	0	2	0	75	0	0	0	0	3	80
2020	1	0	0	0	25	2	0	0	16	44
2019 以前	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
計	32	55	49	124	31	16	105	224	40	676

※海外学術交流協定大学からの特別聴講学生を指す (人数はのべ数)

9 iCoToBa 施設見学

9.1 iCoToBa 訪問者

[表 17 2023 年度 iCoToBa 施設訪問者]

月 日	所属・氏名
5 月 17 日	愛知県立公立大学法人理事長 古川真也 氏
5 月 30 日	千種高等学校 校長 加藤文彦 氏 国際課 黒川有加 氏
6 月 9 日	愛知県公立大学法人評価委員 前田健一 氏(名古屋工業大学大学院工学研究科教授)
9 月 21 日	愛知県副知事 牧野利香 氏

9.2 高等学校の iCoToBa 施設見学

[表 18 2023年度iCoToBa訪問者(高等学校関係)]

月 日	学校名・学年	訪問者数			
		生徒	教諭	PTA	合計
5 月 24 日	愛知県立豊田東高等学校	40	2		42
6 月 9 日	私立桜花学園高等学校	30	1		31
6 月 22 日	岐阜県立多治見高等学校		1	40	41
6 月 27 日	愛知県立御津あおば高等学校		3	20	23
7 月 11 日	私立東邦高等学校	26	2		28
7 月 26 日	富山県立福岡高等学校	40	3		43
8 月 18 日	愛知県立豊田南高等学校	10	1		11
8 月 30 日	愛知県立美和高等学校	30	2		32
8 月 31 日	三重県立津西高等学校	40	2		42
10 月 3 日	愛知県立大府高等学校		4	25	29
10 月 13 日	静岡県立島田高等学校	37	2		39
10 月 19 日	愛知県立犬山高等学校	40	2		42
10 月 23 日	愛知県立吉良高等学校	40	2		42
計 13 校		333	27	85	445

10 グローバル実践教育推進室会議

2023 年度のグローバル実践教育推進室会議開催一覧を以下、表 19 に示す。

[表 19 2023 年度グローバル実践教育推進室会議開催一覧]

回	開催日	主たる審議・報告事項
第 1 回	5 月 19 日	グローバル実践教育推進室名簿について 2023 年度グローバル実践教育推進室事業内容(案) 「グローバル実践教育プログラム」代替科目での履修について グローバル実践教育プログラム「海外協定大学修得科目 (外国語学部)」について 2023 年度英語力強化集中講座担当非常勤講師の委嘱 について 2023 年度前期 iCoToBa 講座開講について グローバルセミナー講師選出依頼 東海東京財団助成金執行結果 2023 年度前期 iCoToBa 講座開講状況 2023 年度前期 iContact 実施について
第 2 回 (メール会議)	6 月 12 日 ~16 日	令和 5 年度(2023 年度)前期集中 iCoToBa 講座開講予定 について
第 3 回 (メール会議)	8 月 10 日 ~21 日	令和 5 年度(2023 年度) グローバル実践教育推進室専 任教員の兼業兼職について
第 4 回 (メール会議)	9 月 21 日 ~27 日	令和 5 年度後期 iCoToBa 開講講座について 2023 年度後期時間割
第 5 回	10 月 18 日	2023 年度東海東京財団助成金の使途について 2023 年度後期 iCoToBa 講座開講予定について 2023 年度前期 iCoToBa 地域コミュニティ言語講座受 講状況について 2023 年度前期留学生 iContact 実施状況について 愛知県教育委員会との連携事業について 2023 年度前期 iCoToBa 授業アンケート 2023 年度後期 iCoToBa 講座開講状況について iCoToBa・グローバル関連イベントの今後のスケジュー ール
第 6 回 (メール会議)	11 月 28 日 ~12 月 5 日	令和 5 年度(2023 年度) グローバル実践教育推進室専 任教員の兼業兼職について

第7回 (メール会議)	12月20日 ~27日	令和5年度(2023年度)後期集中iCoToBa講座開講 予定について
第8回 (メール会議)	2月14日 ~20日	2024年度iCoToBa週間講座非常勤委嘱について

11 グローバル実践教育推進室

2023年度のグローバル実践教育推進室室員および事務担当者は以下のとおりである。

室長	梶原 克教(教養教育センター長、英米学科)
副室長	野田 博也(社会福祉学科)
室員	
外国語学部	前期 長沼 圭一(ヨーロッパ学科フランス語圏専攻) 後期 岸本 聖子(ヨーロッパ学科フランス語圏専攻)
日本文化学部	中根 千絵(国語国文学科)
教育福祉学部	渡邊 眞依子(教育発達学科)
看護学部	片岡 由美子(看護学科)
情報科学部	神谷 幸宏(情報科学科)
グローバル実践教育推進室	ブレット ハック(グローバル実践教育推進室・iCoToBa)
学務部部長兼課長	川島 香織
担当事務職員	水野 淑子(グローバル実践教育推進室・iCoToBa) 秋本 美里(グローバル実践教育推進室・iCoToBa)

iCoToBa 年報 第 11 号

グローバル実践教育推進室年報

2024（令和 6）年 3 月発行

発行：愛知県立大学 iCoToBa（多言語学習センター）
〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522-3 E 棟 2 階
Tel: 0561-76-8833 Fax: 0561-64-1107
e-mail: icotoba@for.aichi-pu.ac.jp
<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/icotoba/>

印刷 株式会社 あるむ

iCoToBa
Annual Report
Aichi Prefectural University

iCoToBaは東海東京財団の助成金を得て、運営しています